

平成24年度

大学における障害者スポーツの現状に関する調査研究
報告書

■障害者スポーツの現状に関する調査研究委員会

委員長	海老原 修	横浜国立大学 教育人間学部	教授
委員	浅見 俊雄	東京大学・日本体育大学 ヤマハ発動機スポーツ振興財団	名誉教授 理事
	藤田 紀昭	同志社大学 スポーツ健康科学部	教授
	高橋 義雄	筑波大学 体育系	准教授
	齊藤 まゆみ	筑波大学 体育系	准教授
	中森 邦男	日本障害者スポーツ協会 指導部 日本パラリンピック委員会	部長 事務局長
	澁谷 茂樹	笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所	主任研究員

■目 次

1. はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 3
2. 調査の概要	・ ・ ・ ・ ・ 4
3. 要 約	・ ・ ・ ・ ・ 6
4. 調査報告	・ ・ ・ ・ ・ 9
4-1 障害者の在籍状況、障害者への支援について	・ ・ ・ ・ ・ 10
4-2 運動施設について	・ ・ ・ ・ ・ 15
4-3 入学試験における障害者スポーツ選手への対応について	・ ・ ・ ・ ・ 21
4-4 アスリートの競技力向上について	・ ・ ・ ・ ・ 23
4-5 障害者スポーツ選手の競技力向上における大学の役割・意向について	・ ・ ・ ・ ・ 26
5. おわりに	・ ・ ・ ・ ・ 28
6. 附録 調査票・単純集計結果	・ ・ ・ ・ ・ 29

はじめに

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS）は平成 18 年 11 月に設立され、平成 19 年度から事業を開始した財団で、アスリート、スポーツ医・科学の研究者など、スポーツの分野で世界に羽ばたこうとチャレンジしている人材に対する助成事業を中心に、スポーツの振興に寄与する事業を展開している。さらに本年度から新たに財団独自のプロジェクト研究を行うこととなり、その一つとして障害者スポーツ、特にパラリンピック等の世界大会を目指している障害者アスリートの育成・強化の環境についての現状調査を実施することとなった。

その一環として、大学、特に体育学、スポーツ科学、健康科学等の専門学部、学科・コースを持ち、これまで健常者のアスリートの育成・強化や、そのための指導者育成、及び研究と研究者養成に実績をあげられてきた大学を対象として、障害者アスリートに関してはそうした教育、研究の環境がどのような状況にあるのかを調査・分析しようという目的で、153 大学の 167 学部・学科・コースを対象にアンケート調査を実施し、そのうち 51 学部の回答を分析してまとめたのが本報告書である。

こうしたテーマを取り上げたのは、平成 23 年に国が制定した「スポーツ基本法」、及び「スポーツ基本計画」の中で、障害者スポーツに関する記述が格段に増え、健常者スポーツと同等の扱いになったこと、特に「計画」の中で、大学におけるこれまでの健常者アスリートや指導者の育成・強化、及びこれに関わる科学的研究・サポート活動の実績を、障害者アスリートにも対象を広げることが期待されると記述されたことによる。

こうした背景の中で本調査が企画・実施されたのであるが、残念ながら回収率も 51 学部・学科・コース（30.5%）と低く、回答された大学でも、障害者スポーツに対する関心・対応は健常者スポーツに比べて極めて低いと言わざるを得ない結果であった。

回答いただいた大学には深く感謝申し上げるとともに、この報告が今後の障害者アスリートに対する各大学の関心、取り組みが、少しでも国の期待に近づいていくきっかけになればと思っている。

浅見 俊雄

■調査の概要

(1) 調査目的

平成23年に制定された「スポーツ基本法」並びに、平成24年に公表された「スポーツ基本計画」において、障害者スポーツが健常者スポーツと並列した記述となって同等の扱いとなり、平成24年夏季のロンドン・パラリンピックでの障害者アスリートの活躍で障害者スポーツについての国民の関心も高まって来ている。こうした社会的状況の中で、これまで健常者アスリートの育成・強化の中核を担ってきた大学、特に体育・スポーツ科学関連の学部、学科等が、障害者スポーツのアスリートの強化・育成についてどう関わっているかについて、その現在の状況を調査・分析することを目的としたものである。本調査では、体育学、スポーツ科学、健康科学の専門学部、学科、コース等を有する大学・学部を対象に、障害者アスリートに向けた教育・研究のスポーツ環境がどのような状況にあるのかを調査・分析した。

(2) 調査内容

調査内容は次の5項目に大別される。

- 1) 障害者の在籍状況・障害者への支援について：障害者在籍状況、支援状況、障害者アスリートの在籍状況ほか
- 2) 運動施設について：大学運動施設の利用状況とバリアフリー水準ほか
- 3) 入学試験における障害者アスリートへの対応について：障害者アスリートを対象とした特別入学制度ほか
- 4) 障害者アスリートの競技力向上について：専門的研究組織、大会派遣実績ほか
- 5) 障害者アスリートの競技力向上に関する大学の役割・意向について

(3) 調査対象

- 1) 体育・スポーツ科学関連の学部・学科・コースをもつ153大学の167学部・学科・コース
(体育・スポーツ科学部：32校、教育学部：80校、福祉学部：8校、その他：47校)

(4) 調査期間

平成24年11月10日～11月30日

(5) 調査方法

- 1) 郵送留置法による質問紙調査（学部長宛てに調査票を郵送、一定期間内に回答を依頼、記入後、返送して回収する方法）による調査
- 2) 調査委託機関：株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局
〒114-8790 東京都北区田端1-25-19 担当：赤塚 TEL：0120-199-665

(6) 回収結果

51学部・学科・コース（回収率：30.5%） ※以下、学部数として記載する。

(7) 調査報告書作成の経緯

本調査報告書は公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団「大学における障害者スポーツの現状に関する調査委員会」を組織し、合計4回の会合を経てまとめた。

■要 約

本調査では、全国の体育学、スポーツ科学、健康科学の専門学部、学科・コースを有する153大学の167学部を対象に、平成24年11月10日～11月30日にかけて、郵送留置法による質問紙調査を行い、51学部から回答を得られた。主な調査結果は次の通りである。

①障害者の在籍・支援、障害者スポーツ選手への支援について

51学部のうち、「聴覚障害」を有する学生を27学部(52.9%)が受け入れる。次いで「その他の障害」24学部(47.1%)、「肢体不自由(車椅子)」19学部(37.3%)、「病弱」17学部(33.3%)、「視覚障害」16学部(31.4%)が続き、多くの大学が障害者を受け入れている。

- ◆障害者を支援する学内支援部署を20学部(39.2%)が設置する。そのうち、7割が講義における支援と生活環境における支援を、4割がその他の支援を、それぞれ行う。

障害のあるスポーツ選手は次のような在籍状況であった。「聴覚障害」8学部(15.7%)、「視覚障害」5学部(9.7%)、「その他の障害」4学部(7.8%)、「肢体不自由(車椅子)」と「肢体不自由(義肢)」3学部(5.9%)。

- ◆障害者スポーツ選手の在籍状況は、「聴覚障害」の在籍を把握するでは27学部のうち8学部、「視覚障害」を把握する16学部のうち5学部である。
- ◆これまでの障害者スポーツ競技大会への参加状況を16学部が把握し、その競技大会は「競技別障害者スポーツ国際大会」50.0%、「デフリンピック」「国体(予選会を含む)」「一般の学生競技大会」43.8%、「パラリンピック」37.5%を数える。

②障害者スポーツに向けた大学運動施設の利用状況とバリアフリー水準

大学には屋内外の競技場や体育館、プールなどさまざまな運動施設がある。そのうち、全面的にバリアフリーに対応している「体育館メインアリーナ」は10学部(20.4%)、「球技用グラウンド」8学部(16.7%)であった。一部にバリアフリーに対応する運動施設箇所は「体育館メインアリーナ」35学部(71.4%)、「種目別体育館」16学部(57.1%)、「陸上競技場」21学部(52.5%)であった。

- ◆バリアフリーに対応していない運動施設は高い順に「プール」28学部(71.8%)、「アーチェリー場」11学部(61.1%)であった。
- ◆障害をもつ選手や団体への利用状況は「陸上競技場」6学部(15.0%)、「体育館メインアリーナ」「種目別体育館」「トレーニング施設」3学部(10.7%)、「球技用グラウンド」「プール」「テニスコート」2学部(4.3%)であった。
- ◆今後の使用や貸出の予定について、すべての運動施設が6割以上を予定せず、現状でも将来的にも、障害者スポーツ選手がトレーニングを目的に利用できる施設は限られている。
- ◆運動施設の使用や貸出実績を、障害者スポーツ種目別にみると、「車いすバスケットボール」が10学部、「陸上競技」では8学部であった。

③入学試験における障害者アスリートへの対応

パラリンピックやデフリンピック等の国際大会や国体やインターハイなどの国内大会に出場した高校生（受験生）を念頭に、入学試験における障害者スポーツ選手への対応措置をたずねた。「実技試験」を課す学部は35.3%（18件）、「筆記試験」は45.1%（23件）、「面接試験」は45.1%（23件）を数える。特別推薦制度の有無をたずねると、国際レベルや全国レベルの障害者スポーツ選手に対する特別推薦制度がある大学・学部は5.9%（3件）にとどまった。

④障害者アスリートの競技力向上について

競技力向上を目的とする研究組織を31学部（60.8%）が備えるが、そのうち障害者スポーツ選手を対象に研究をすすめる学部は9学部であった。

- ◆競技力向上を目的としたコーチの養成を行う組織を18学部（35.3%）が備えるが、そのうち障害のある選手のためのコーチ養成を実施するのは1学部であった。
- ◆障害のある選手のためのコーチ養成を実施する1学部と無回答2学部を除く48大学に今後の障害者スポーツのコーチ養成について、その可能性をたずねると、15学部（31.3%）が開設意向をもつが、そのうち7学部は何らかのが条件付きである。
- ◆障害者スポーツの国内外の大会に大学の教職員を選手、指導者、役員、支援スタッフ等として派遣した実績は14学部（27.5%）にのぼる。派遣大会は、パラリンピック、ジャパンパラ競技大会、アジアユースパラゲームズ、デフリンピック、スペシャルオリンピックス、グローバルゲームス、全国障害者スポーツ大会など、多岐にわたる。

⑤障害者アスリートの競技力向上に関する大学の役割・意向について

障害のあるスポーツ選手の競技力向上における大学の役割を16項目あげたところ、「障害者スポーツに関する授業の開設」「活動に対する人的サポート支援」「大学スポーツ施設の利用」「教育に関する予算措置」「大学研究（実験）施設の利用」「競技大会への教職員の派遣」に重要性が認められた。

- ◆重要性が認められない項目は「選手育成・強化に関する予算的措置」「障害のあるスポーツ選手（学生として）育成・強化」「専門のコーチ養成」「研究に関する予算措置」であった。

■ 調查報告

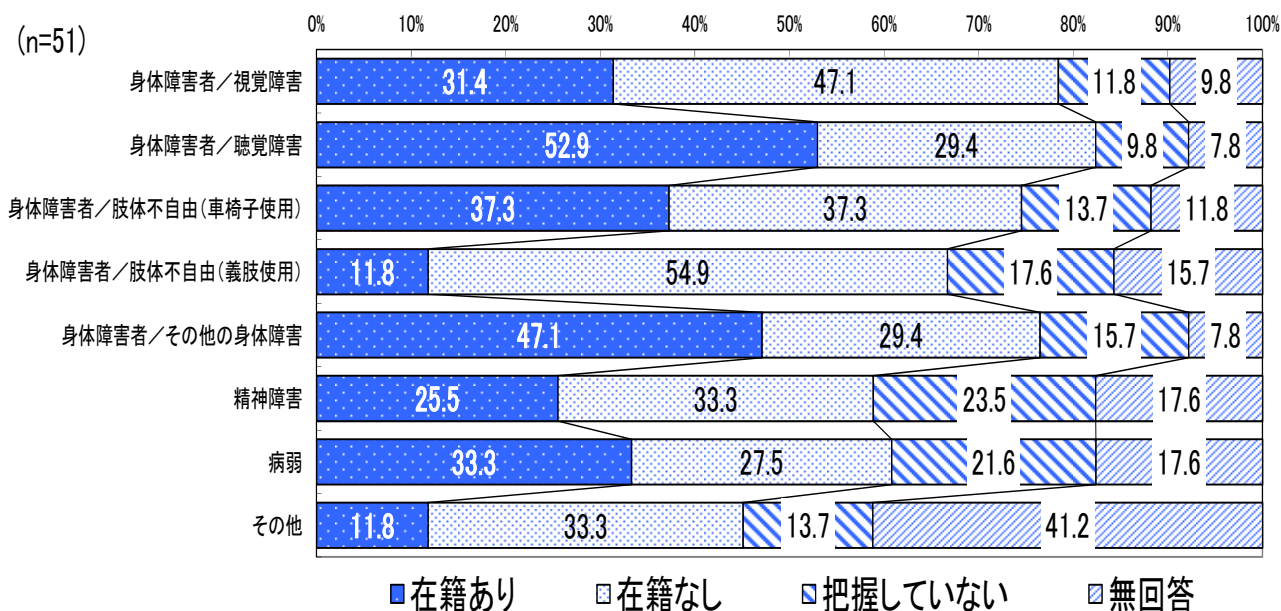
I 障害者の在籍状況、障害者への支援について

<図1-1>は、回答を得た51学部の障害者の在籍状況を障害種別に示した。

「聴覚障害」をもつ学生が在籍する学部が52.9%と最も多く、次いで「その他の障害」47.1%、「肢体不自由（車椅子）」37.3%、「病弱」33.3%、「視覚障害」31.4%が続き、多くの学部が障害者を受け入れている。

しかしここで重要な視点は、在籍者の有無ではない。注視するポイントは、「把握していない」及び「無回答」の割合である。その比率は障害種によって異なるが、20~30%前後の学部が、障害者の在籍の有無を確認していない実態である。

図 1-1 障害者の在籍状況

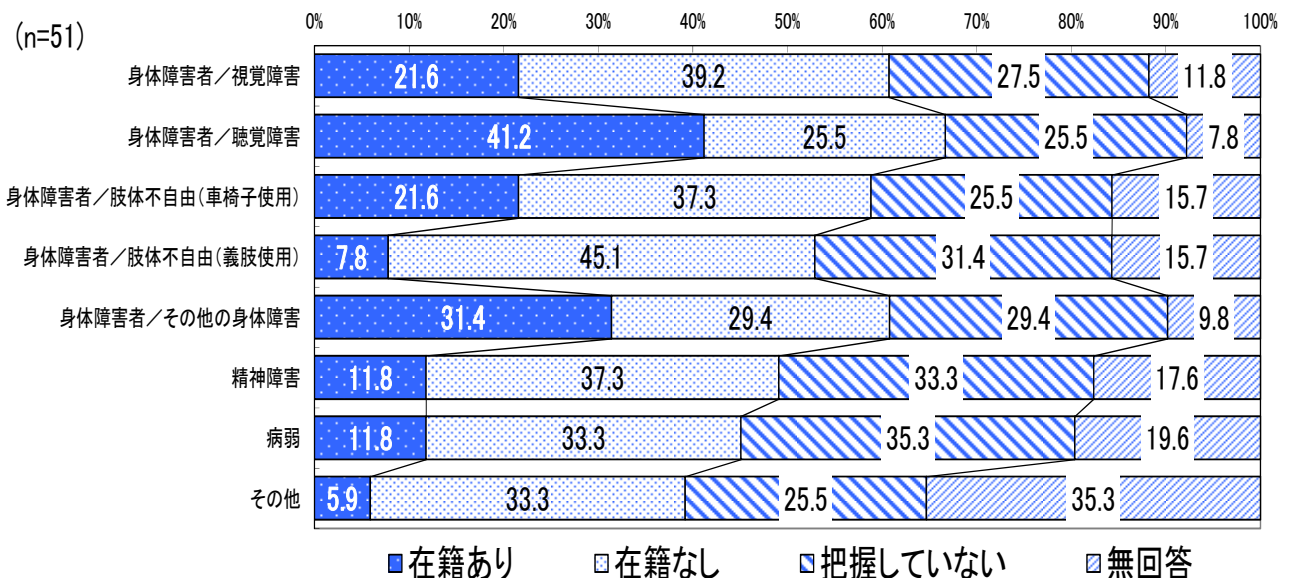


さらに、これらの障害種8指標をクロス集計すると、障害者の在籍状況の把握に向けた学部への対応をうかがい知る。最上段の視覚障害者の在籍を把握する16学部のうち、15学部が聴覚障害の在籍を並行して把握し、肢体不自由(車椅子)11学部、肢体不自由(義肢)3学部、その他の身体障害14学部、精神障害6学部、病弱8学部を数える。最も多く在籍する聴覚障害27学部では、肢体不自由(車椅子)16学部、肢体不自由(義肢)4学部、その他の身体障害20学部、精神障害10学部、病弱13学部がその在籍を把握している。それは、単一の障害種にとどまらず、障害者全般にわたって学部が障害のある学生を受け入れている実情にあり、在籍の把握はもとよりケアが行き届いていると推察される。が同時に、

学部間の受け入れ状況に格差が生じる可能性も否定できない。

<図1-2>に卒業生(平成20~23年度)を対象とした障害者の在籍状況を示した。在籍した者は「聴覚障害」41.2%、「その他の障害」31.4%、「視覚障害」と「肢体不自由(車椅子)」21.6%が多く、「精神障害」と「病弱」11.8%、「肢体不自由(義肢)」7.8%と続く。また、「在籍あり」「在籍なし」「把握していない」の割合では、前2者の合計値は身体障害者では6割、「精神障害」「病弱」4~5割にとどまっており、図1-1に示した現在の在籍学生の把握状況と比較すると、現在の方が障害者の在籍把握が1割上昇しており、受け入れ体制の整備が改善されていると判断できる。

図1-2 障害者の卒業状況



＜図2＞は障害者を支援する学内の部署の有無をたずねた結果である。支援部署があるとの回答は20学部、4割にとどまった。しかしながら、＜図3＞に示すように、講義における支援と生活環境における支援は7割、その他の支援は4割に達する。

すなわち、支援部署が設置されていないにもかかわらず、15学部が講義を、16学部が生活環境をそれぞれ支援している。それは運用が先行し、制度が追いついていない可能性が示唆される。

図2 障害学生支援部署の有無

(n=51)

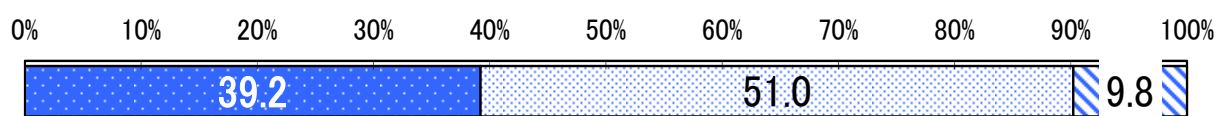
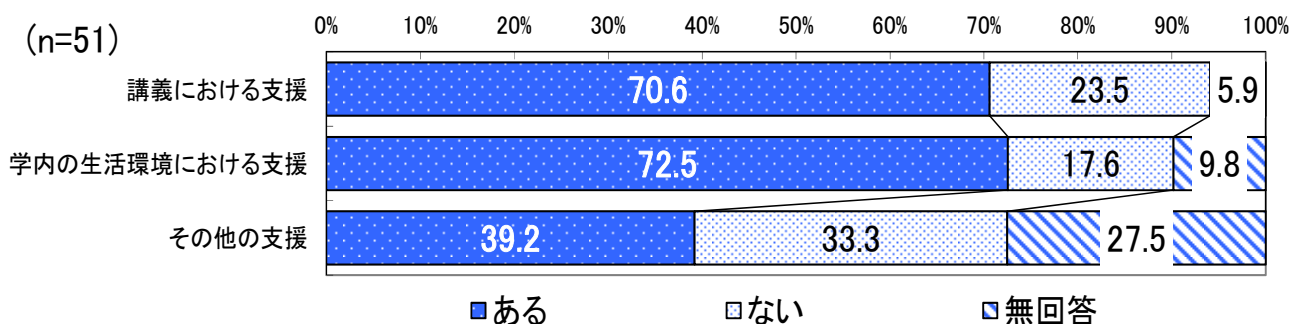


図3 障害者の在籍状況、障害者への支援について

(n=51)



＜図4-1＞に障害のあるスポーツ選手の在籍状況を示した。「聴覚障害」15.7%（8学部）、「視覚障害」9.8%（5学部）、「その他の障害」7.8%、「肢体不自由（車椅子）」と「肢体不自由（義肢）」5.9%（3学部）と続く。＜図1-1＞に示した「視覚障害」者を把握している15学部のうち5学部において障害者スポーツ選手の在籍を確認し、最も多い「聴覚障害」では26学部のうち8学部に障害者スポーツ選手が在籍している。

＜図4-2＞に卒業生（平成20～23年度）を対象とした障害者スポーツ選手の在籍状況を示した。この時期に在籍した障害者スポーツ選手は「聴覚障害」15.7%（8学部）、「その他の障害」13.7%（7学部）、「肢体不自由（車椅子）」5.9%（3学部）、「視覚障害」3.9%（2学部）であった。

図4-1 障害のあるスポーツ選手の在籍の有無

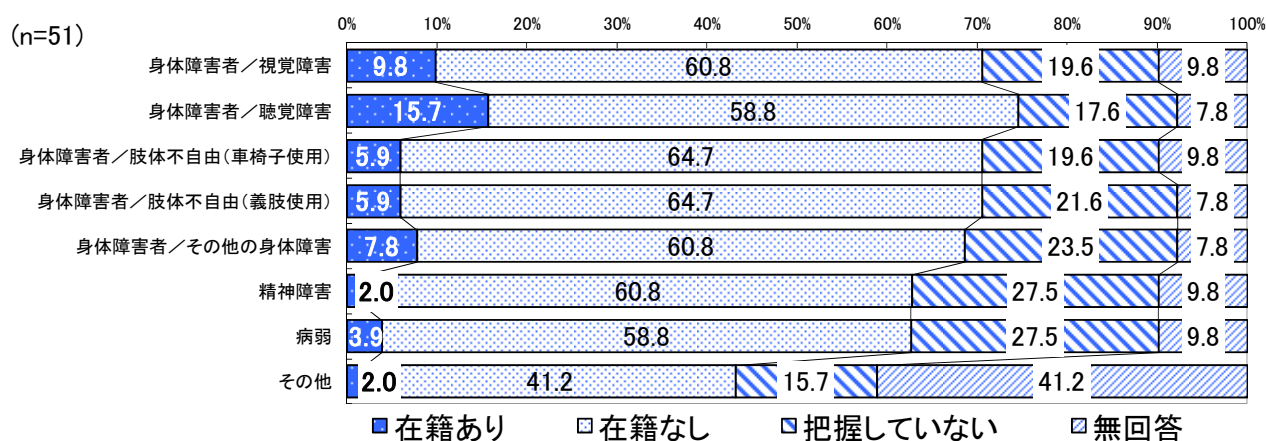
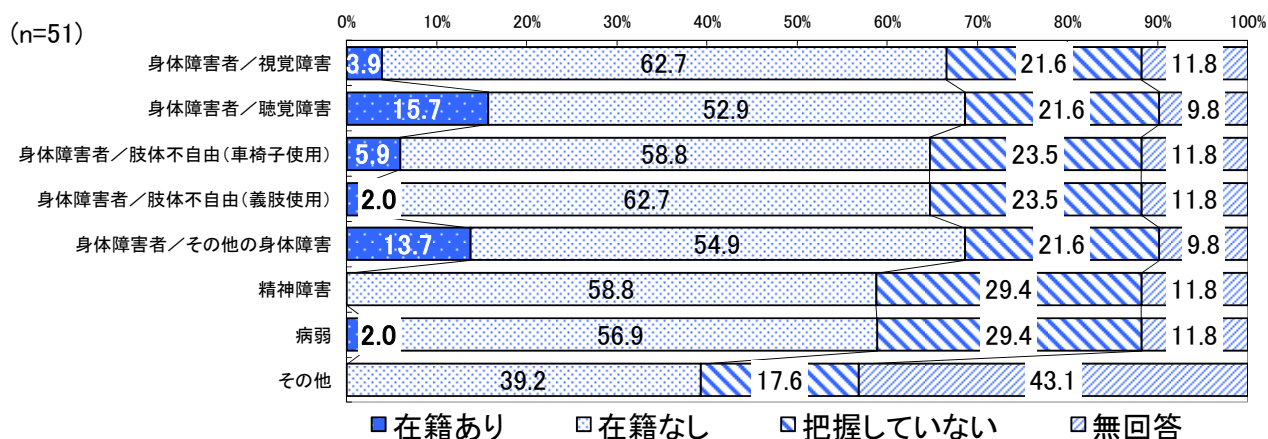


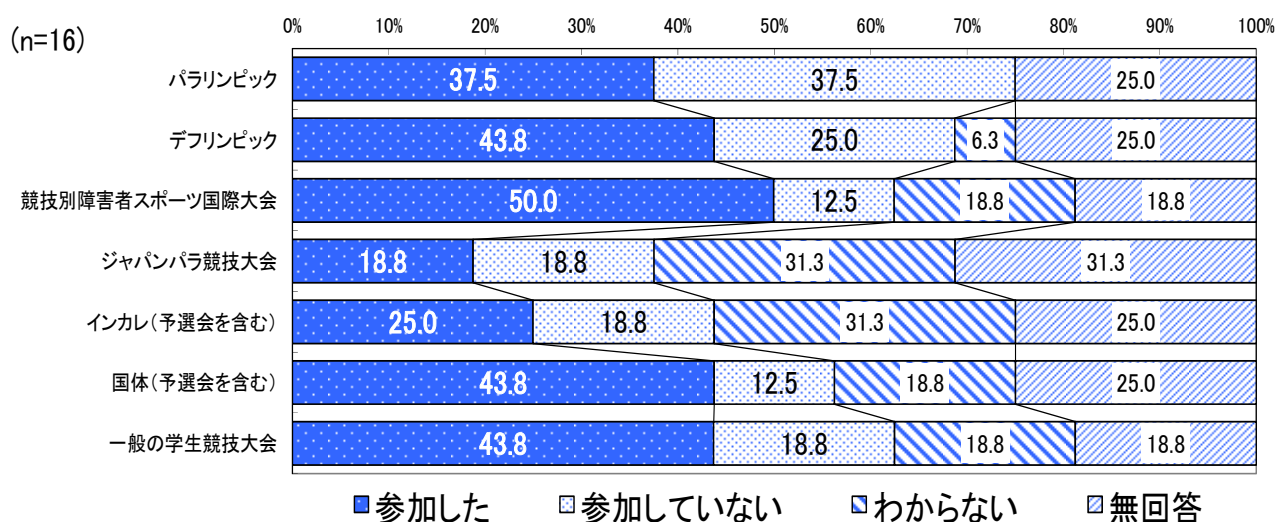
図4-2 障害のあるスポーツ選手の卒業生の有無



＜図4-3＞にはこれまでの障害者スポーツ選手の競技大会への参加状況を障害者スポーツ選手の在籍を把握している16学部における割合で示した。「競技別障害者スポーツ国際大会」50.0%（8学部）、「デフリンピック」「国体（予選会を含む）」「一般の学生競技大会」43.8%（7学部）、「パラリンピック」37.5%（6学部）の学部から障害者アスリートが各種大会に出場している。

（海老原 修）

図 4-3 障害スポーツ選手の大会への参加状況

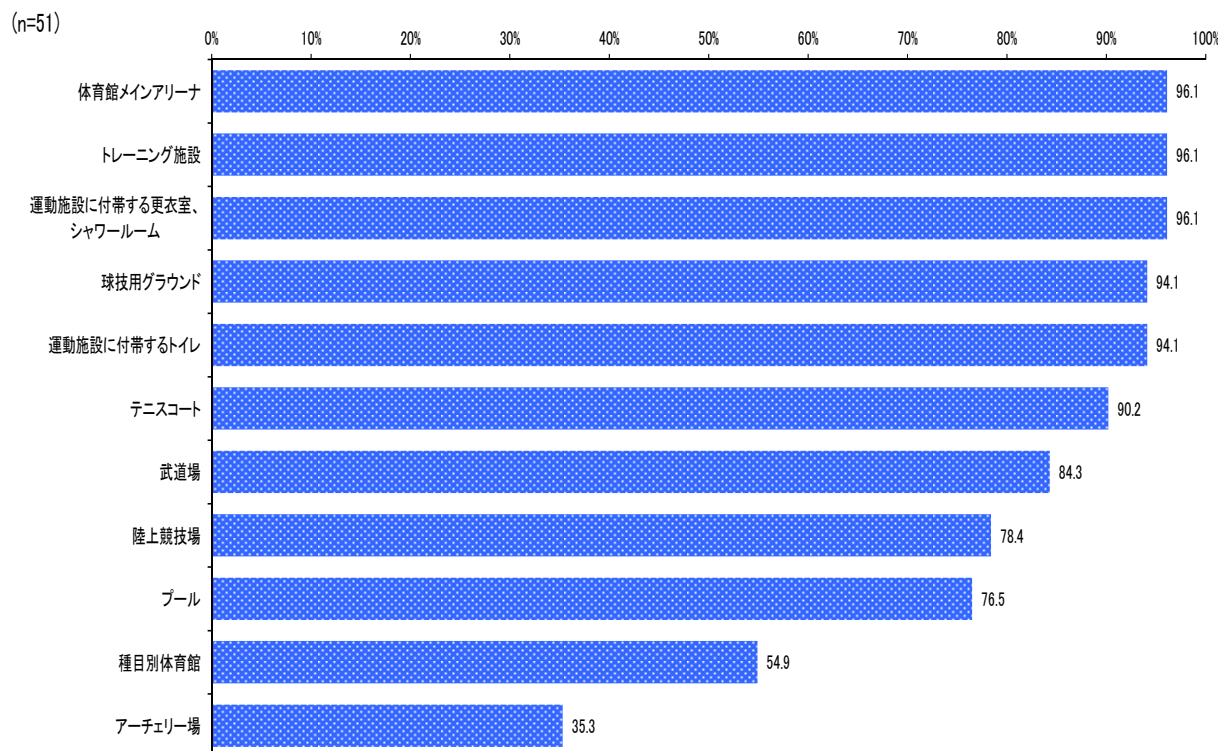


II 運動施設について

＜図5-1＞にあるように、回答のあった51学部の保有する施設は、「体育館メインアリーナ」「トレーニング施設」「運動施設に付帯する更衣室、シャワールーム」が96.1%（49学部）、続いて「球技用グラウンド」「運動施設に付帯するトイレ」が94.1%（48学部）であった。

アーチェリー場は、35.3%（18学部）となっている。種目別体育館は54.9%（28学部）と約半数であった。障害者スポーツの種目によっては健常者の多目的な「体育館メインアリーナ」に特殊な設備が必要になるケースもあり、種目別体育館として施設・設備が充実するのは今後の課題と考えられる。

図 5-1 大学が保有する施設



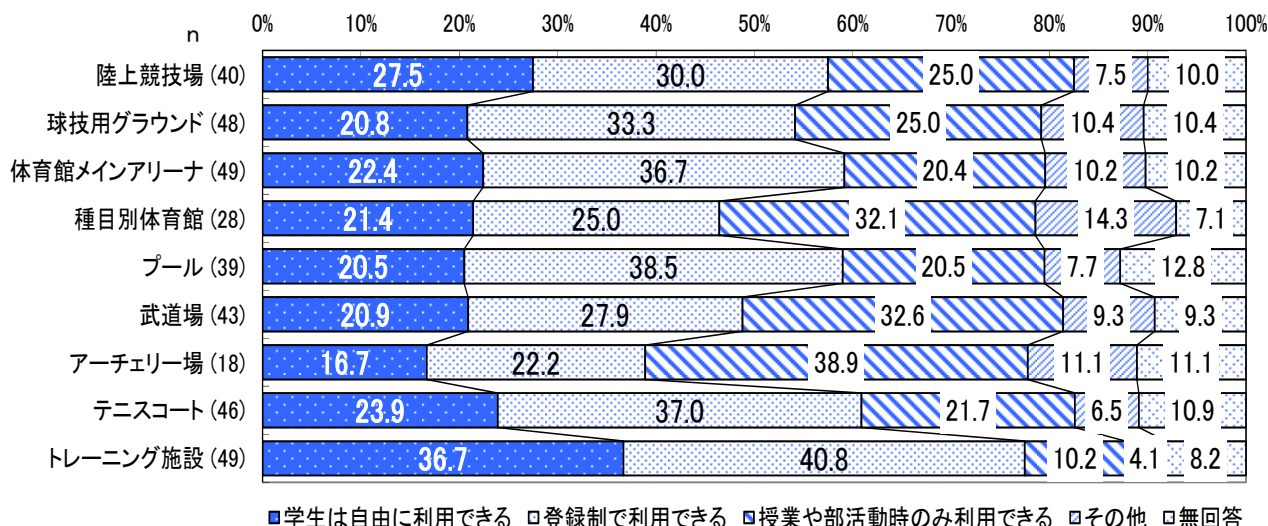
保有する運動施設ごとの学内の学生の利用状況を<図5-2>に示した。「トレーニング施設」は、「学生は自由に利用できる」「登録制で利用できる」が77.6% (38 学部) であり、学生が利用しやすい施設になっている。また「テニスコート」60.9% (28 学部)、「体育館メインアリーナ」59.2% (29 学部)、「プール」59.0% (23 学部) も学生が比較的に利用しやすい施設である。

アーチェリー場 38.9% (7 学部)、武道場 32.6% (14 学部)、種目別体育館 32.1% (9 学部) が「授業や部活動時のみ利用できる」と

なっており、教員や指導者などが立ち会う組織的な活動に制限されている施設もある。

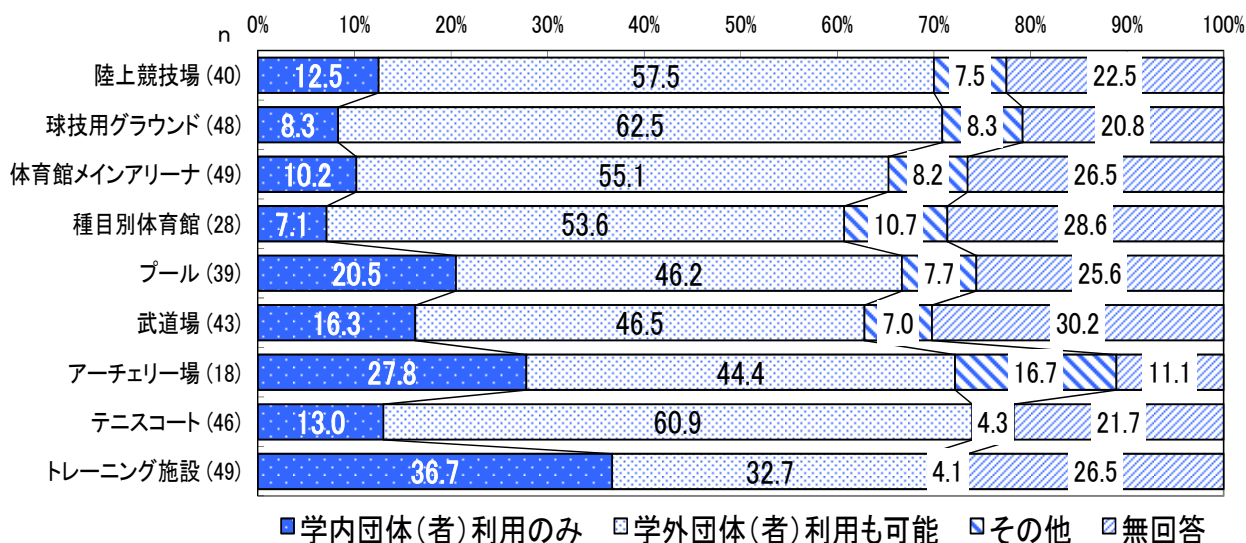
続いて、学外の個人・団体の利用状況を図5-3に示した。「トレーニング施設」は「学内団体(者)利用のみ」が36.7% (18 学部) と他の施設と比較して学内団体(者)の利用を考慮した施設であった。「球技用グラウンド」「テニスコート」は6割以上が「学外団体(者)利用も可能」、その他の施設は概ね5割が「学外団体(者)利用も可能」としていた。

図 5-2 大学の運動施設の利用状況(学内)



■学生は自由に利用できる □登録制で利用できる ▨授業や部活動時のみ利用できる ▩その他 □無回答

図 5-3 大学の運動施設の利用状況(学外)

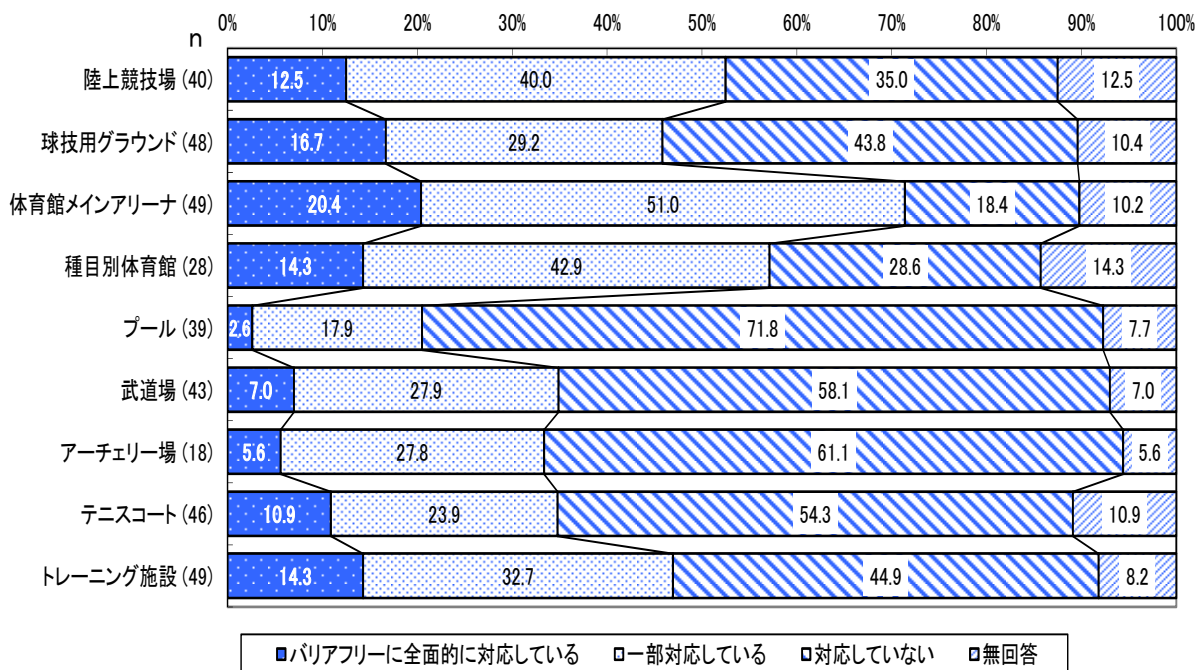


■学内団体(者)利用のみ □学外団体(者)利用も可能 ▨その他 □無回答

大学の運動施設のバリアフリー度を<図5-4>に示した。「バリアフリーに全面的に対応している」とする運動施設は少なく、一番多い「体育館メインアリーナ」では、20.4%（10学部）、次に「球技用グラウンド」16.7%（8学部）であった。「一部対応している」を含めても5割を超える運動施設は「体育館メインアリーナ」71.4%（35学部）、「種目別体育館」57.1%（16学部）、「陸上競技場」52.5%（21学部）であった。

「対応していない」の回答が多い運動施設は、「プール」71.8%（28学部）、「アーチェリー場」61.1%（11学部）であった。障害者スポーツには競泳、アーチェリーがあるが、障害者スポーツ選手に対応した施設は限られているのが現状である。

図5-4 大学の運動施設のバリアフリー度



＜表1-1＞では、更衣室・シャワールームがそれぞれの運動施設に付帯しているかについてたずねた。無回答を除く回答数49学部のうち、「体育館メインアリーナ」は83.7%（41学部）、「プール」63.3%（31学部）、「武道場」55.1%（27学部）設置されている。

「アーチェリー場」は2%（1学部）、「テニスコート」10.2%（5学部）と少なく、両施設については別の施設で更衣しなければならぬ可能性がある。さらに更衣室・シャワールームのバリアフリーに対応ができていない施設が多いことがわかる。

＜表1-2＞は、トイレがそれぞれの運動施設に付帯しているかについての回答である。無回答を除く回答数48学部のうち、「アーチェリー場」は6.3%（3学部）、「テニスコート」31.3%（15学部）、「種目別体育館」45.8%（22学部）が5割以下であるが、その他の施設は5割以上で付帯していた。これらのバリアフリー度は、更衣室・シャワールームのそれと比較すれば高いものの、多くの施設で対応ができていない。

表 1-1 更衣室、シャワールームが付帯している運動施設

	調査数 (n)	陸上競技場	球技用グラウンド	メインアリーナ 体育館	種目別体育館	プール	武道場	アーチェリー場	テニスコート	トレーニング施設	無回答
全体	49	24.5	20.4	83.7	42.9	63.3	55.1	2.0	10.2	46.9	10.2
バリアフリーに全面的に対応している	2	-	-	100.0	-	-	50.0	-	-	50.0	-
一部対応している	17	29.4	23.5	82.4	47.1	64.7	76.5	-	5.9	64.7	11.8
対応していない	25	24.0	20.0	84.0	44.0	72.0	48.0	4.0	16.0	36.0	8.0

表 1-2 トイレが付帯している運動施設

	調査数 (n)	陸上競技場	球技用グラウンド	体育館メインアリーナ	種目別体育館	プール	武道場	アーチェリー場	テニスコート	トレーニング施設	無回答
全体	48	54.2	52.1	81.3	45.8	56.3	54.2	6.3	31.3	50.0	8.3
バリアフリーに全面的に対応している	5	40.0	20.0	80.0	20.0	20.0	60.0	-	20.0	40.0	20.0
一部対応している	25	56.0	52.0	80.0	52.0	68.0	52.0	4.0	40.0	56.0	8.0
対応していない	12	50.0	58.3	83.3	33.3	58.3	66.7	8.3	16.7	41.7	-

<図6-1>では、トレーニングの目的で障害のあるスポーツ選手、団体が使用、貸し出しの現在の状況について回答を得た。最も貸し出しの多い施設は「陸上競技場」15.0%（6学部）であった。その他の施設は7～8割の施設が「ない」と回答し10%程度の「無回答」もある。トレーニング目的で施設を障害のあるスポーツ選手や団体が使用している実態が非常に少ない実態がわかる。

過去の使用貸出状況は<図6-2>になるが、「陸上競技場」22.5%（9学部）、「体育館

メインアリーナ」20.8%（10学部）、「種目別体育館」17.9%（5学部）と現状よりわずかに多い。

さらに<図6-3>では、今後の使用や貸出の予定について回答を得た。「陸上競技場」22.5%、「種目別体育館」17.9%、その他の施設は10%台にある。すべての運動施設で6割以上が「予定はない」としており、意向があっても積極的に使用や貸出をすすめる状況ではない。

図6-1 現在の競技施設の使用貸出状況

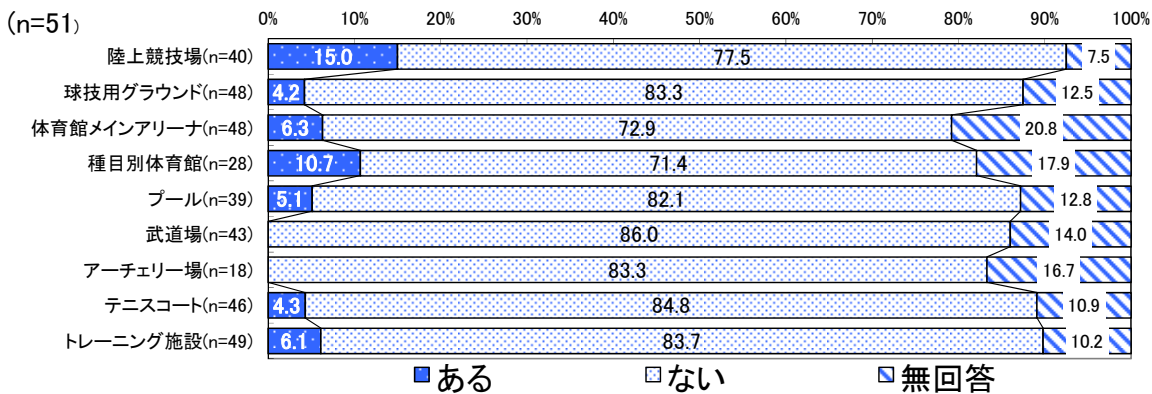


図6-2 過去の競技施設の使用貸出状況

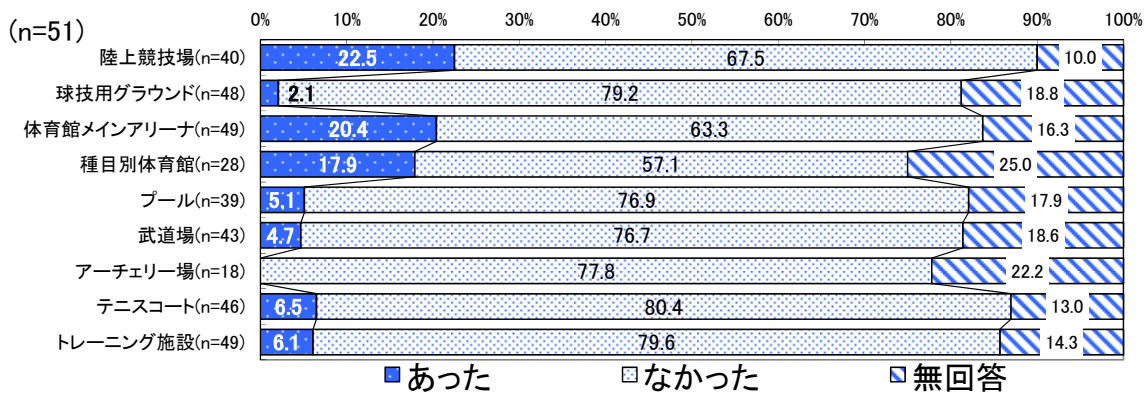
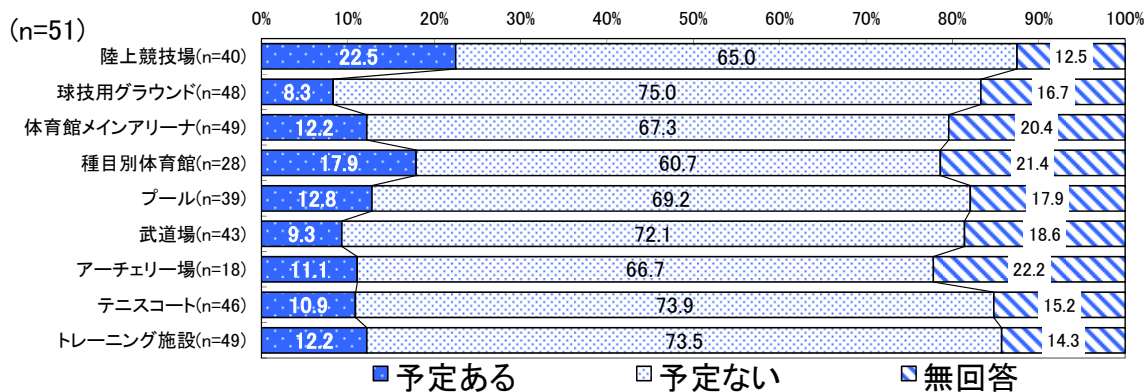


図6-3 今後の競技施設の使用貸出状況



＜表2＞に運動施設の使用や貸出実績のある障害者スポーツ種目を示した。「車いすバスケットボール」には、「体育館メインアリーナ」「種目別体育館」の使用・貸し出しが行われ、10事例と一番多い。続いて「陸上競技」が「陸上競技場」を使用もしくは貸出を受ける事例が20%（8学部）となった。「車いすバスケットボール」は「体育館メインアリーナ」以外にも「種目別体育館」を使用または貸し出しを受けていた。事例のように競技種目と施設の間に柔軟な対応が検討される余地がある。しかし8割以上が「無回答」であり、種目

ごとにどの施設を使用・貸与されているかについて大学側が把握していない実態が明らかになった。

（高橋 義雄）

表2 使用貸出実績のあるスポーツ種目

	調査数 (n)	陸上 競技	水泳	車いす テニス	ボッチャ	卓球	柔道	セー リング	リフ ティ ン グ	射撃	自 転 車	アー チ エ リー	馬 術
陸上競技場	40	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
球技用グラウンド	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
体育館メインアリーナ	49	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
種目別体育館	28	-	-	-	-	3.6	-	-	-	-	-	-	-
プール	39	-	10.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
武道場	43	-	-	-	-	-	4.7	-	-	-	-	-	-
アーチェリー場	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6	-
テニスコート	46	-	-	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トレーニング施設	49	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	ゴール ボール	フ エ ン シ ン グ	バス ケ ット ボ ー ル	車いす バス ケ ット ボ ー ル	障 害 者 サ ツ カ ー （ 視 覚 ・ 脳 性 麻 痺 ）	ウ ィ ル チ ェ ア ー ラ グ ビ ー	バ シ ッ テ ィ ン グ ボ ー ル	ボ ー ト	（ ア ル ペ ン ノ ） バ イ ア ス ロ ン （ ）	ア ィ ス ス レ ッ ジ ホ ッ ケ ー	カ ー チ ン グ	車いす カ ー チ ン グ	そ の 他	無 回 答
陸上競技場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80.0
球技用グラウンド	-	-	-	-	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	95.8
体育館メインアリーナ	-	-	14.3	-	-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	-	81.6
種目別体育館	-	-	10.7	-	-	-	-	-	-	-	-	3.6	-	82.1
プール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	89.7
武道場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.6	90.7
アーチェリー場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	94.4
テニスコート	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95.7
トレーニング施設	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98.0

Ⅲ 入学試験における障害者スポーツ選手への対応について

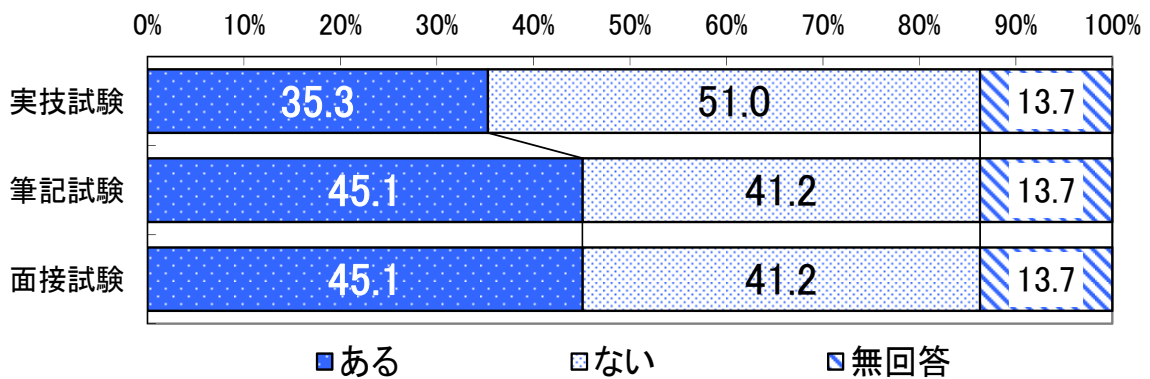
平成25年度大学入学者選抜・大学入試センター試験・受験案内の受験特別措置では①視覚障害、②聴覚障害、③肢体不自由、④病弱、⑤発達障害、⑥その他の区分に応じた対象者の特定と措置例が明示されている。聴覚障害では点字回答や拡大文字、聴覚障害では手話通訳士の配置や文書による注意事項の伝達、発達障害では試験時間の延長（1.3倍）などが具体的な措置例となる。

このような措置を対象とすると、より特殊な事情を考慮した入試制度が自己推薦制度（AO入試）や推薦入試制度となるのかもしれない。とりわけ、体育・スポーツ領域におけるスポーツ推薦制度はその一部を構成する。たとえば、平成25年度横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程推薦入試学生募集要項では全国卒・保健体育専門領域では「保健体育の志願者にとっては、学校教育における保健体育に関わる内容に関して強い興味・関心を有することができ、

かつ、都道府県以上の大会・競技会で8位以内の成績を収めた者。この場合、それに該当することを証明する資料のコピーを添付すること。団体競技の場合は、志願者が競技に参加したことを証明できるものを添付すること。」と記載されている。オリンピックに匹敵するパラリンピックに出場した高校生が、推薦入試の選抜方針である教員になる強い意欲を有し、先の保健体育の要学部を満たすならば、いかなる対応となるのか興味・関心が高まる。

<図7-1>は入学試験における各大学の障害者スポーツ選手への対応を示した。パラリンピックやデフリンピック等の国際大会や国体やインターハイなどの国内大会に出場した高校生（受験生）を念頭にその措置をたずねた。「実技試験」を課す学部は35.3%（18学部）、「筆記試験」は45.1%（23学部）、「面接試験」は45.1%（23学部）を数える。

図 7-1 入学試験における障害者スポーツ選手への実施の有無



さらにこれらの対応のうち、個別対応の有無について回答を求めた（＜図7-2＞）。実技試験では55.6%と半数が、筆記試験では7割弱が、面接試験では半数が、それぞれ個別に対応する措置を講じていた。

さらに、その試験における特別推薦制度の有無をたずねると、国際レベルや全国レベルの障害者スポーツ選手に対する特別推薦制度があるのは5.9%（3学部）にとどまった（＜図8-1＞）。

いわゆるスポーツ推薦制度は健常者を対象とするが、この仕組みを障害者スポーツ選手向けに等分にあるいは応分に整備するのか、あるいは、パラリンピックに出場した障害者スポーツ選手の競技水準は、都道府県以上の大会・競技会で8位以内の成績を収めた範囲に含まれるのか否か、という前述の問いかけは、すなわちスポーツ推薦制度の対象に障害者を含めるのか、となる。障害者スポーツ選手を巡って、論議されるべき課題は多い。

（海老原 修）

図 7-2 入学試験における障害者スポーツ選手への個別対応の有無

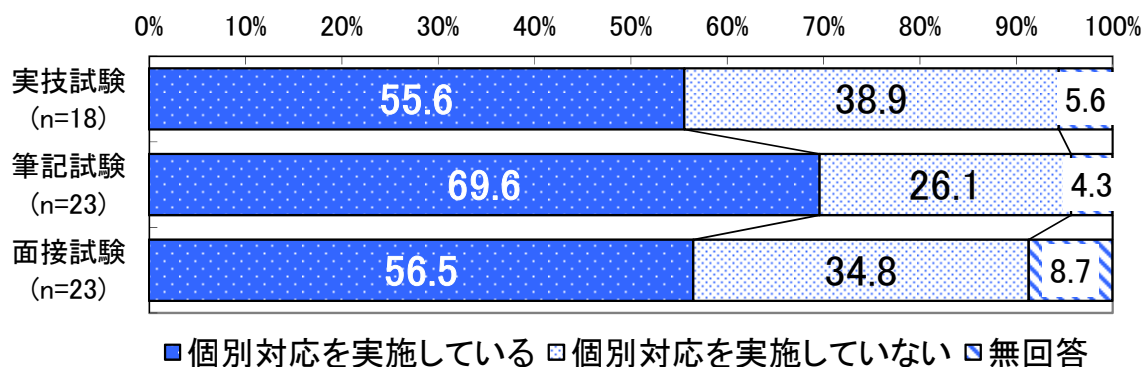


図 8-1 障害のある学生に対しての特別推薦制度の有無

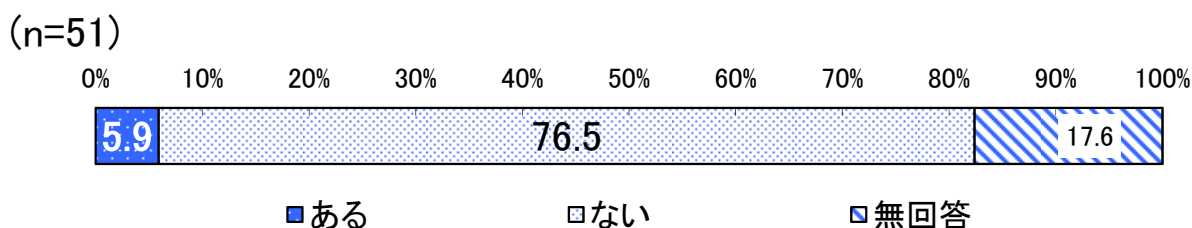
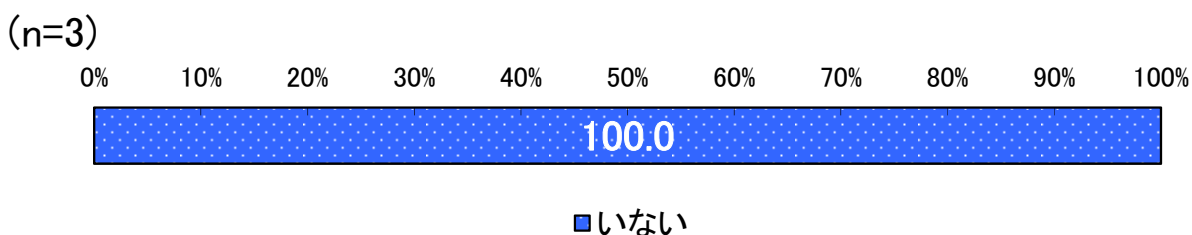


図 8-2 障害者スポーツ選手の過去の特別推薦制度志願者の合格者の有無



IV アスリートの競技力向上について

＜図9＞は障害の有無に関わらず競技力向上を目的とした研究組織の有無について示している。「ある」と答えた学部が31(60.8%)、「ない」と答えた学部が19(37.3%)である。

＜図9-1＞は「ある」と回答した31学部に対して障害者スポーツ選手対象の研究の実施状況についてたずねた結果である。22学部(71.0%)では障害者の競技力向上のための研究は実施していない。複数の研究者が実施している大学は2大学のみで多くは個人研究のレベルにとどまっている。

＜図10＞は問9-1で「ときどき行っている」「行っていない」と回答した学部に対して障害のある選手の競技力向上のための研究推進の意向についてたずねた結果である。「必要があれば行う」と答えた学部が29(65.9%)、「必要ない」と答えた学部が9(20.5%)で、障害者スポーツ選手の強化のための研究が必要だと認識している学部は現時点で少ない。

図9 学内のアスリートの競技力向上を目的とした研究組織の有無

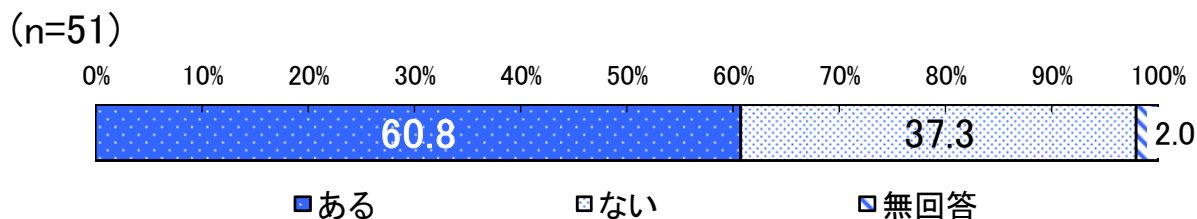


図9-1 研究組織での障害者スポーツ選手対象の研究の有無

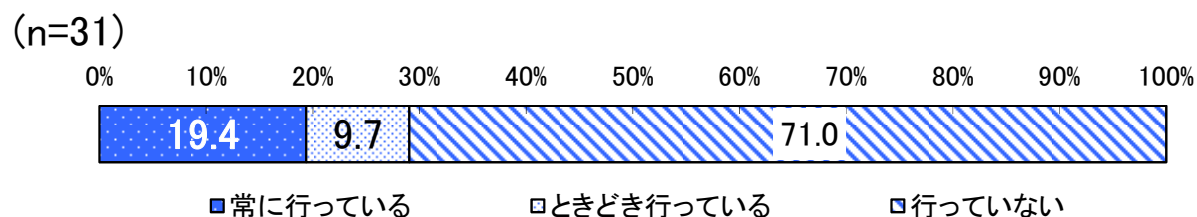
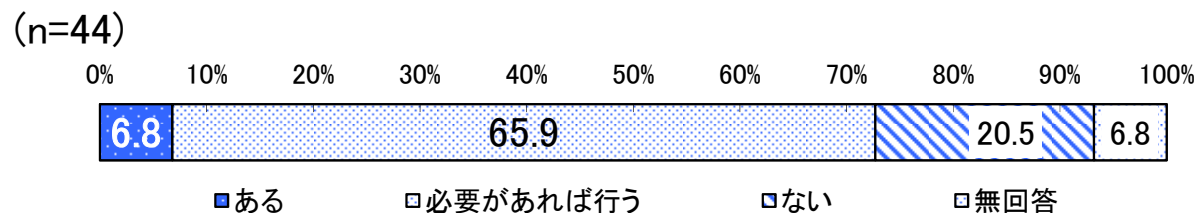


図10 今後の障害者スポーツ選手の競技力向上を目的とした研究意向



＜図 1 1＞は障害の有無に関わらず競技力向上を目的としたコーチの養成を行う組織の有無について示している。「ある」とした学部が 18 (35.3%)、「ない」とした学部が 32 (62.7%) であった。

＜図 1 2＞は問 11 で「ある」とした 18 学部に障害のある選手のためのコーチ養成の実施の有無についてたずねた結果である。「常に行っている」学部は 1 (5.6%)、「ときどき行っている」学部が 5 (27.8%)、「行っていない」学部が 11 (61.1%) であった。

＜図 1 3＞では、障害者スポーツ選手のためのコーチ養成を常に行っていると答えた 1 学部以外の 48 学部に今後障害者スポーツのコーチ養成の可能性の有無についてたずねた結果である。「ある」8 学部 (16.7%)、「ない」32 学部 (66.7%) であった。障害者スポーツ選手のためのコーチ養成の可能性が「ある」7 学部 (14.6%) では、「学内の理解」「ニーズの高まり」「予算の確保」等を具体的な条件にあげていた。

図 11 学内のアスリートの競技力向上を目的としたコーチ養成を行う組織の有無

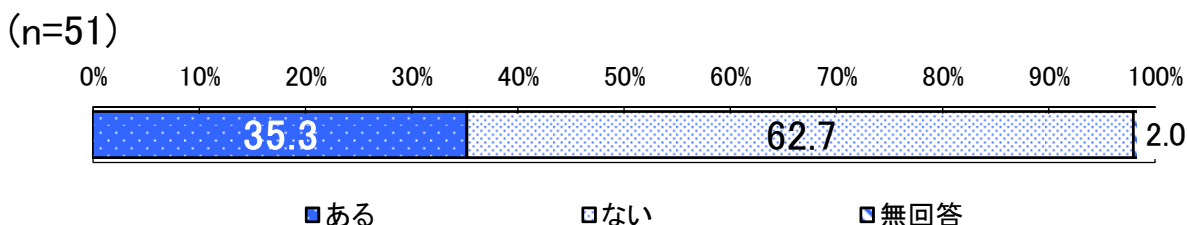


図 12 組織内での障害スポーツ選手を指導するコーチ養成の有無

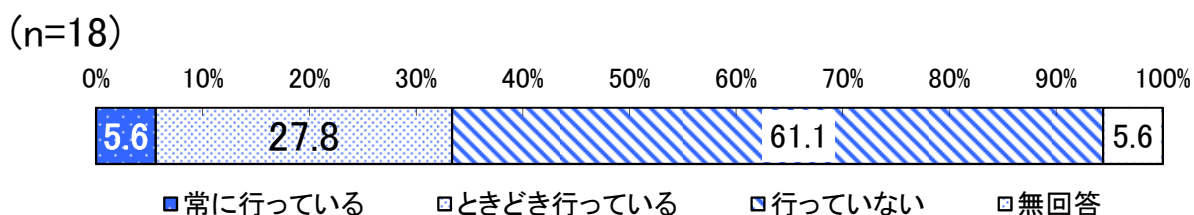
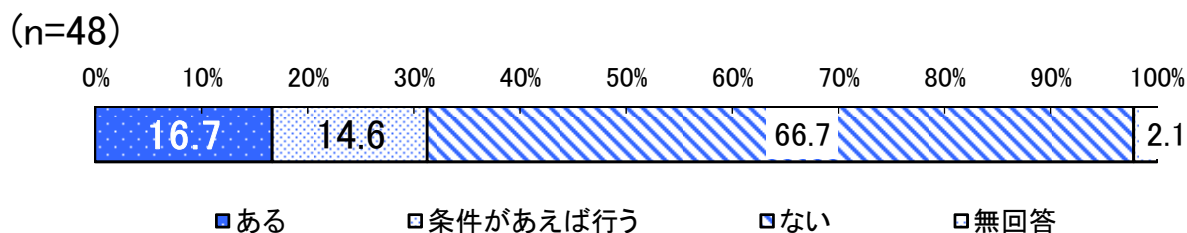


図 13 今後の障害スポーツ選手を指導するコーチ養成の可能性



<図14>は障害者スポーツの国内外の大会に大学の教職員を選手、指導者、役員、支援スタッフ等として派遣した実績についてたずねた結果である。14学部(27.5%)が経験「ある」、35学部(68.6%)が「ない」であった。これらのうちパラリンピックに派遣実績が「ある」は7学部、他の国際競技大会は5学部、ジャパンパラ競技大会は6学部、他の国内大会は7学部であった。具体的にはパラリンピック、ジャパンパラ競技大会のほかアジアユースパラゲームズ、デフリンピック、スペシャルオリンピックス、* INAS-FID グローバル大会、全国障害者スポーツ大会などであった。

* International Sports Federation for Persons with Intellectual Disability

<図14-1~4>はそれぞれの大会に派遣した時の身分について示している。各大会に指導者、役員、「支援スタッフとして派遣」がそれぞれ1~5学部、「選手としての派遣」が1~2学部でその数は少ない。選手、指導者のほか医・科学スタッフなどの派遣も少数ではあるがみられた。

(藤田 紀昭)

図14 国際、国内大会へ教職員を選手、指導者等で派遣した経験

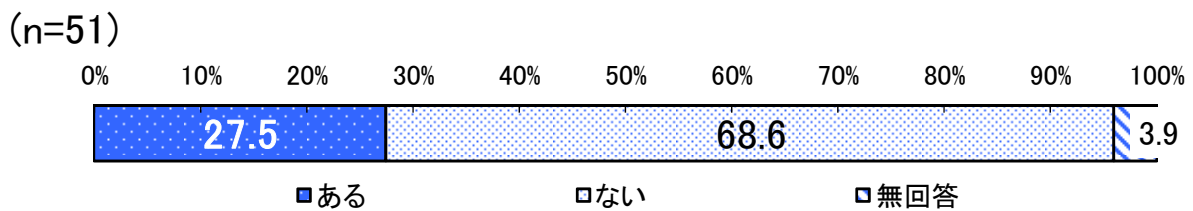


図14-1 パラリンピック

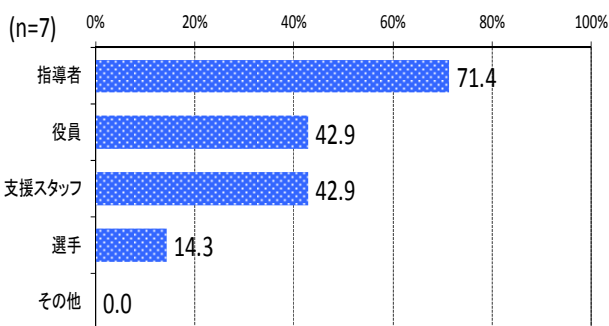


図14-2 ジャパンパラ競技大会

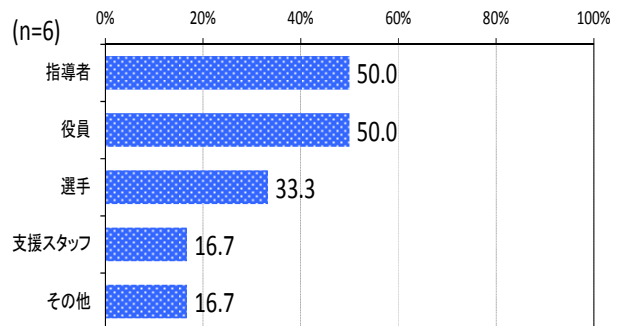


図14-3 その他国際試合

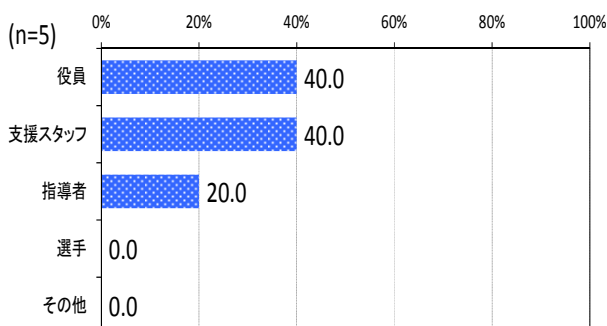
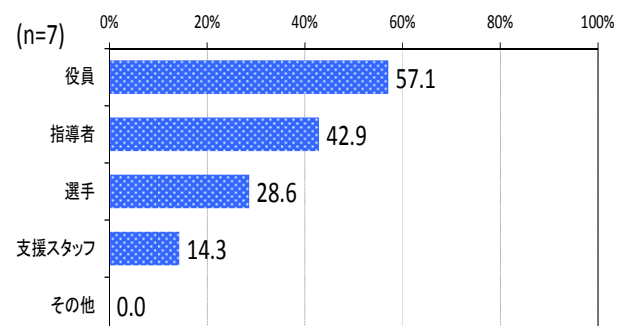


図14-4 その他国内大会



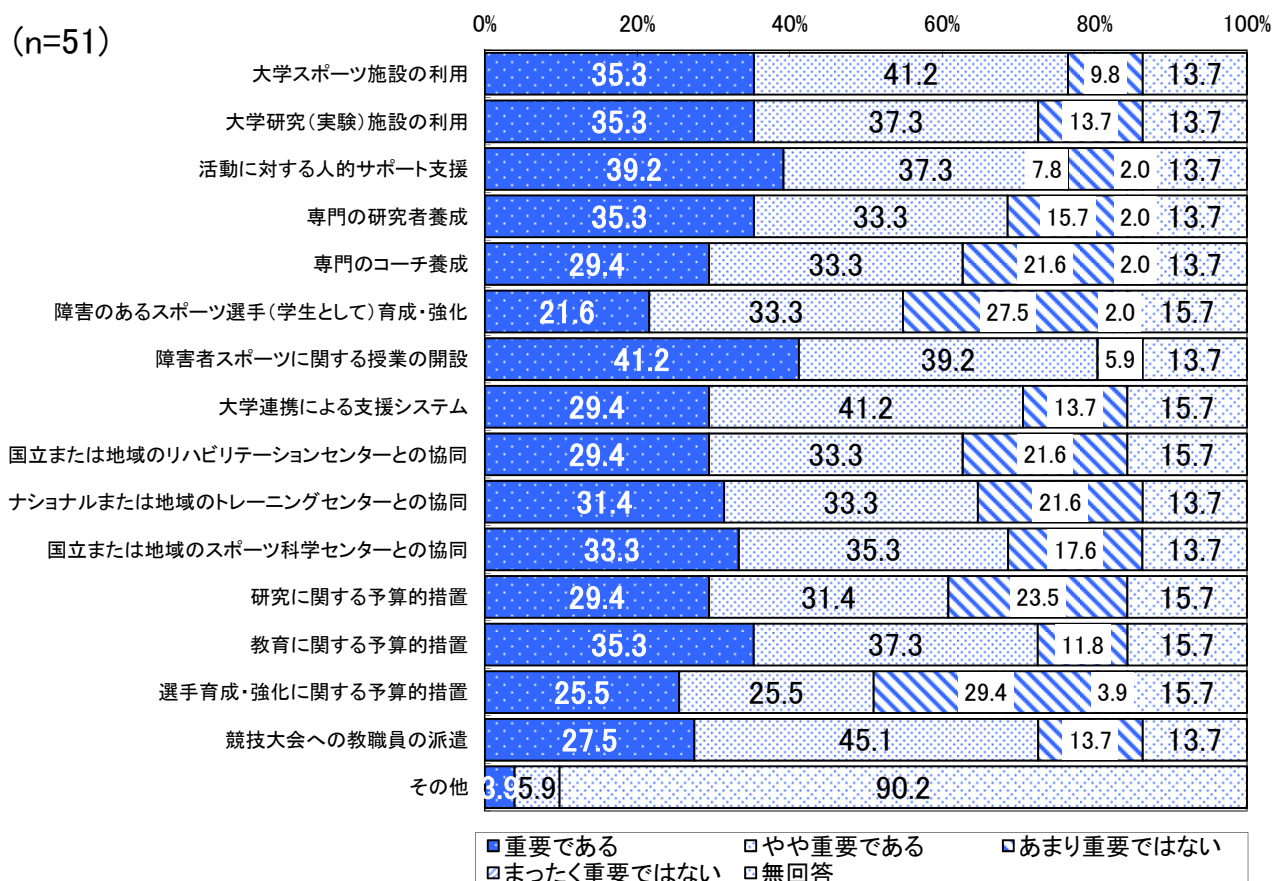
V 障害者スポーツ選手の競技力向上における大学の役割・意向について

＜図15＞は、障害のあるスポーツ選手の競技力向上における大学の役割について、16項目を提示し、その重要度についての大学の意向を示している。各項目とも、「重要である」「やや重要である」「あまり重要ではない」「全く重要ではない」で回答を求めた。その結果、重要度の高い項目は、「障害者スポーツに関する授業の開設」「活動に対する人的サポート支援」「大学スポーツ施設の利用」「教育に関する予算措置」「大学研究（実験）施設の利用」「競技大会への教職員の派遣」であった。

重要度が低い項目は「選手育成・強化に関する予算措置」「障害のあるスポーツ選手（学生として）育成・強化」「専門のコーチ養成」「研究に関する予算措置であった。

大学の意向として、①教育を重視し、②障害者スポーツに関する授業を通して、③広く理解を図り、また④既存の施設・設備の利用や現有人的資源での貢献など経済的負担が少なく即対応可能である項目が重視されている傾向が示された。

図15 障害者スポーツ選手の競技向上における大学の役割の重要度



<図16>は、大学の役割として示した16項目の実施状況を示している。実施率の高い項目は、「障害者スポーツに関する授業の開設」「競技大会への教職員の派遣」「活動に対する人的サポート支援」「大学スポーツ施設の利用」であった。一方、実施率の低い項目は、「大学連携による支援システム」「選手育成・強化に関する予算措置」「障害のあるスポーツ選手（学生として）育成・強化」「専門のコーチ養成」であった。これらの結果から、前述した重要度の高い項目との相関関係が高く、「他機関との連携や協同」や「学生アスリートとして障害のあるスポーツ選手を育成・強化」の実現がより現実的である一方、「専門のコーチ養成」は、実施率も、今後も実施見込みも低い結果が確認できる。

この「専門コーチ養成」については、過去に障害者スポーツに関与する学生が入学していないために具体的な対応策が不要であったり、専任教員数が少ないために優先順位が低くなったり、総じて地域・学内での理解が欠如したりといった困難さがかがえた。

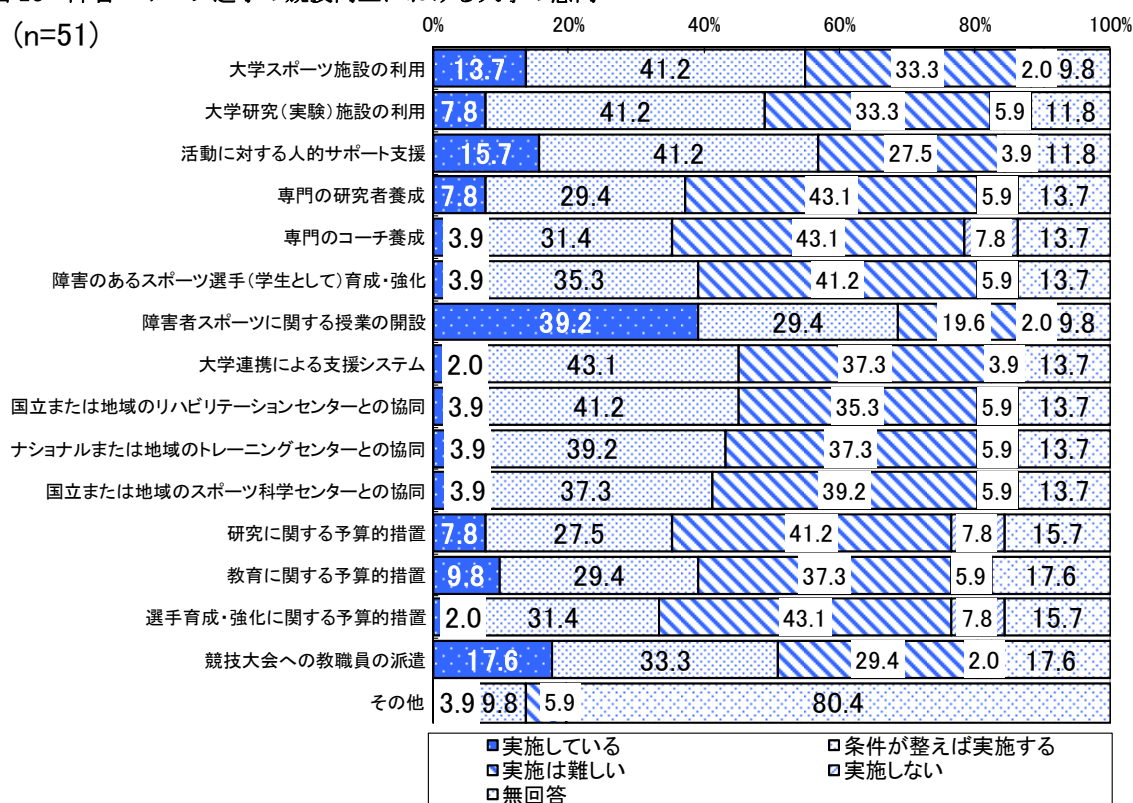
また「研究者の養成や研究予算」「他機関と

の協同」では、条件があれば実施する意向を示す大学と条件があっても実施困難とする大学に大別された。

そこで、実施状況について、実施している（1ポイント）、条件があれば実施する（2ポイント）、実施は難しい（3ポイント）、実施しない（4ポイント）として、各大学の回答を得点化したところ、16項目の平均が2.0未満に10大学が該当し、そのうち2大学は1.5未満であった。したがって、この2大学が障害者スポーツの競技力向上のための拠点としての機能をもつ可能性が期待される。また、競技力向上だけでなく、幅広く障害者スポーツの振興を指向すべきという意見もあり、2.0以上の大学の中にも、今後積極的に関与していく意向を示す大学もある。各大学の特色を活かした有機的な連携がはかられ、障害者スポーツの拠点形成がすすむと期待される。しかしながら現状では、学外との連携には消極的であり、障害者スポーツの競技力向上に関連する機関と拠点大学、連携大学が有機的に連携・コーディネートする公的組織の設置と人的配置が望まれる。

（齊藤 まゆみ）

図16 障害者スポーツ選手の競技向上における大学の意向 (n=51)



おわりに

平成 24 年夏のロンドン・オリンピックでは金メダル 7 つを含む 38 個と史上最多のメダルを獲得した。応援への感謝を表そうと日本オリンピック委員会が企画した東京・銀座の凱旋パレードの沿道には約 50 万人が集まった（平成 24 年 8 月 20 日）。引き続き開催されたパラリンピックもまた多くの人びとに興奮と感激をあたえてくれた。ふたつの大会がともに、琴線を揺する理由は選手たちの、そして彼らを支える関係者の、ひたむきさにある。とりわけ、パラリンピック選手たちは競技そのものだけでなく障害を乗り越える。ゆえに、オリンピック以上の努力と忍耐が感じ取れる。メダルや順位はひたむきさを生み出すツールに過ぎないと教えてくれる。メダル獲得が目的ならば、パラリンピックのメダル 16 個はオリンピックの半数以下で、興奮と感激は半減する。そんな物言いは間違いなく興覚めとなろう。だからこそ、石原都知事が日本オリンピック委員会に凱旋パレード開催を示唆したように、日本パラリンピック委員会もまた橋下・大阪市長と諮って凱旋パレードを大阪・御堂筋で開催して欲しかった。大阪は障害者スポーツの本拠地なのだから。

このような夢物語を描く理由は、未だパラリンピックがオリンピックと比肩できる状況に達していないからに他ならない。折しも内閣府「障害者に関する世論調査」（平成 24 年 7 月調査）が 9 月 24 日に発表され、障害者への差別や偏見があると答えた人が平成 19 年調査と比較して 6.3 ポイント上昇し、89.2%に上ったという。

幸い、先の夢は仙台で実現した。震災復興支援のため、日本オリンピック委員会と日本障害者スポーツ協会が企画したパレードが平成 24 年 12 月 2 日に JR 仙台駅前近くの大通りで開催され、オリンピックとパラリンピアンがゆっくりと歩をすすめ沿道の人々と笑顔でハイタッチを交わした。

さて、プロアマの境界線が消滅しアマチュアリズムも死語となった。福利厚生に始まり広告塔を経た企業スポーツは休部・廃部に瀕する。そのような状況下、改めて、わが国のトップアスリートを支えてきたのが大学スポーツであると確認できる。戦前から戦後を通じて、強固な基盤を連綿と提供し続ける大学がその社会資本となるスポーツ環境を障害者スポーツ選手に門戸開放しているのか否か。そんな基本的な問いかけを今回の調査で投げ掛けた。体育学、スポーツ科学、健康科学の専門学部、課程、学科、コース等を有する大学・学部 167 校からの回答は 51 件、30.5%にとどまった。オリンピックとパラリンピックがセットで論議されるグローバル・スタンダードにあつて、この回収率をいかに解釈するか。障害者に向ける世間の視線と同じく障害者スポーツ選手へのそれも冷たいのだろうか。体育やスポーツにおけるインクルージョン推進・実現に向けて、本調査が戦端を切る。

■ 調査票・単純集計結果

大学における障害者スポーツの現状に関する調査

2012年11月

ご担当者様

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

「大学における障害者スポーツの現状に関する調査」ご協力をお願い

秋冷の候、貴大学にはますますご発展のことと存じます。

さて、このたび当財団では、大学、特に体育学、スポーツ科学、健康科学等の専門学部を持ち、これまでも健常者のアスリートの育成・強化や、そのための指導者養成、及び研究と研究者養成に実績をあげられてきた大学・学部を対象として、障害者アスリートに関してはそうした教育、研究の環境がどのような状況にあるのかを調査・分析することになりました。

つきましては、ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。**数値等についてご不明な場合は、学内関係機関にご確認の上、ご回答いただければ幸いです。**なお、本調査結果は統計的に処理して、個々の大学のお名前は出ない形で発表いたします。また貴大学へもまとまった調査結果をお送りいたします。

また、本アンケート調査のご回答につきましては、同封の返信用封筒にて、**2012年11月30日（金）**までにご投函いただけますよう、お願い申し上げます。

調査票の発送・回収・データ入力については、当財団の委託先である株式会社サーベイリサーチセンターが担当しております。**調査の実施について、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。**

【調査実施機関・問合せ先】

株式会社サーベイリサーチセンター 〒114-8790 東京都北区田端 1-25-19
調査事務局 担当：赤塚 TEL：0120-199-665（月～金曜日、9時～17時）

※本調査（問1）における用語について

区分	説明
視覚障害	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のものまたは視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能または著しく困難なもの
聴覚障害	両耳の聴覚レベルがおおむね 60 デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によって通常の話声を解することが不可能または著しく困難な程度のもの
肢体不自由	1 肢体不自由の状態が補装具の使用によって歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能または困難な程度のもの 2 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
精神障害	精神疾患（脳・心の機能的障害によって引き起こされる疾患）を有するもの
病弱	1 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療または生活規則を必要とする程度のもの 2 身体虚弱の状態が継続して生活規則を必要とする程度のもの

◆ 記入者のプロフィール

所属・役職		氏名	
電話番号		FAX 番号	
E-mail			

I 障害者の在籍状況、障害者への支援について

問1 全学部を対象にしてお伺いします。貴大学で、現在の在籍者及び過去4年間の卒業生における障害者の在籍状況と在籍者数について、障害別にそれぞれお答えください。(○はそれぞれ1つ)

		障害の種類	在籍	在籍なし	把握していない	
①在籍者 (平成21～24年 入学)	身体障害	視覚障害	1 (名)	2	3	
		聴覚障害	1 (名)	2	3	
		肢体不自由(車椅子使用)	1 (名)	2	3	
		肢体不自由(義肢使用)	1 (名)	2	3	
		その他の身体障害	1 (名)	2	3	
			精神障害	1 (名)	2	3
			病弱	1 (名)	2	3
		その他 ()	1 (名)	2	3	

		障害の種類	在籍	在籍なし	把握していない	
②卒業生 (平成20～23年 卒業)	身体障害	視覚障害	1 (名)	2	3	
		聴覚障害	1 (名)	2	3	
		肢体不自由(車椅子使用)	1 (名)	2	3	
		肢体不自由(義肢使用)	1 (名)	2	3	
		その他の身体障害	1 (名)	2	3	
			精神障害	1 (名)	2	3
			病弱	1 (名)	2	3
		その他 ()	1 (名)	2	3	

問2 貴大学の授業における障害のある学生への支援についてお伺いします。貴大学内において、障害学生支援部署はありますか。(○は1つ)

1. ある	2. ない
-------	-------

問3 貴大学における障害のある学生への支援についてお伺いします。
また、支援がある場合は、その内容を記入してください。

支援の種類	支援の有無 (○は1つ)	その内容を具体的に記入
1. 講義における支援	1. ある → 2. ない	----- -----
2. 学内の生活環境における支援	1. ある → 2. ない	----- -----
3. その他の支援	1. ある → 2. ない	----- -----

問4 貴大学で、現在の在籍者及び過去4年間の卒業生における障害のあるスポーツ選手の在籍状況についてお伺いします。障害別にそれぞれお答えください。(○はそれぞれ1つ)

障害の種類		在籍	在籍なし	把握していない
①在籍者 (平成21~24年 入学)	身体障害			
	視覚障害	1	2	3
	聴覚障害	1	2	3
	肢体不自由(車椅子使用)	1	2	3
	肢体不自由(義肢使用)	1	2	3
	その他の身体障害	1	2	3
	精神障害	1	2	3
	病弱	1	2	3
	その他()	1	2	3

障害の種類		在籍	在籍なし	把握していない
②卒業生 (平成20~23年 卒業)	身体障害			
	視覚障害	1	2	3
	聴覚障害	1	2	3
	肢体不自由(車椅子使用)	1	2	3
	肢体不自由(義肢使用)	1	2	3
	その他の身体障害	1	2	3
	精神障害	1	2	3
	病弱	1	2	3
	その他()	1	2	3



(問4で1つでも「在籍」と回答した大学にお伺いします。)

問4-1 障害のある学生が下記の大会に参加したかについて、参加状況と参加人数をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

競技名	参加した	参加していない	わからない
1. パラリンピック	1 (名)	2	3
2. デフリンピック	1 (名)	2	3
3. 競技別障害者スポーツ国際大会	1 (名)	2	3
4. ジャパンパラ競技大会	1 (名)	2	3
5. インカレ(予選会を含む)	1 (名)	2	3
6. 国体(予選会を含む)	1 (名)	2	3
7. 一般の学生競技大会	1 (名)	2	3

Ⅱ 運動施設について

問5 大学の運動施設についてお知らせください。保有する運動施設がある場合は、利用状況、バリアフリー度についてそれぞれお答えください。

	利用状況						バリアフリー度 (○は1つ)		
	学 内 (○は1つ)			学 外 (○は1つ)					
貴大学が保有する施設の番号に○をつけてください。	1. 学生は自由に利用できる	2. 登録制で利用できる	3. 授業や部活動時のみ利用できる	1. 学内団体(者)利用のみ	2. 学外団体(者)利用も可能		1. バリアフリーに全面的に対応している	2. 一部対応している	3. 対応していない
1. 陸上競技場	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
2. 球技用グラウンド	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
3. 体育館メインアリーナ	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
4. 種目別体育館	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
5. プール	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
6. 武道場	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
7. アーチェリー場	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
8. テニスコート	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
9. トレーニング施設	1	2	3	1	2		1	2	3
	4. その他 ()			3. その他 ()					
10. 運動施設に付帯する更衣室、シャワールーム	付帯する上記施設の番号(1~9)を記入 ()						1	2	3
11. 運動施設に付帯するトイレ	付帯する上記施設の番号(1~9)を記入 ()						1	2	3

問6 貴大学の学生か否かを問わず、問5の質問でたずねた貴大学の施設をこれまで、障害者スポーツのトレーニングのために障害のあるスポーツ選手、団体が使用、または選手、団体に貸し出されたことはありますか、お答えください。(○はそれぞれ1つ)

また、施設の使用貸出の実績があるスポーツ種目を、今後予定ありも含めて、下記主要な障害者スポーツ競技種目の一覧より番号にてお選びのうえ記入してください。

競技施設	現在 (使用/貸出)		過去 (使用/貸出)		今後 (使用/貸出)		競技種目
	1 ある	2 ない	1 あった	2 なかった	1 予定ある	2 予定ない	
1. 陸上競技場	1	2	1	2	1	2	
2. 球技用グラウンド	1	2	1	2	1	2	
3. 体育館メインアリーナ	1	2	1	2	1	2	
4. 種目別体育館	1	2	1	2	1	2	
5. プール	1	2	1	2	1	2	
6. 武道場	1	2	1	2	1	2	
7. アーチェリー場	1	2	1	2	1	2	
8. テニスコート	1	2	1	2	1	2	
9. トレーニング施設	1	2	1	2	1	2	

◆主要な障害者スポーツ競技種目

1. 陸上競技	2. 水泳	3. 車いすテニス	4. ボッチャ	5. 卓球
6. 柔道	7. セーリング	8. パワー リフティング	9. 射撃	10. 自転車
11. アーチェリー	12. 馬術	13. ゴールボール	14. 車いす フェンシング	15. 車いすバス ケットボール
16. 障害者サッカー (視覚/脳性麻痺)	17. ウィルチェアー ラグビー	18. シットイング バレーボール	19. ボート	20. スキー (アルペン/ クロカン / パイロン)
21. アイススレッジ ホッケー	22. 車いすカーリング	23. その他 ()	24. その他 ()	

Ⅲ 入学試験における障害者スポーツ選手への対応について

問7 体育・スポーツに関する学部・学科コース等を対象にしてお伺いします。問4-1で伺ったスポーツ大会及び全国高等学校総合体育大会（インターハイ）等で活躍した障害のある受験生について、貴学部等ではどのような試験を実施*するのでしょうか。それぞれお答えください。

* 差し支えないようでしたら、入試要綱を同封の返送用封筒に調査票と一緒にに入れてご返送いただければ幸いです。お手数ですが、よろしくお願い申し上げます。

試験の種類	実施の有無	個別対応の有無
1. 実技試験	1. ある <input type="checkbox"/> → 2. ない <input type="checkbox"/>	1. 個別対応を実施している 2. 個別対応を実施していない
2. 筆記試験	1. ある <input type="checkbox"/> → 2. ない <input type="checkbox"/>	1. 個別対応を実施している 2. 個別対応を実施していない
3. 面接試験	1. ある <input type="checkbox"/> → 2. ない <input type="checkbox"/>	1. 個別対応を実施している 2. 個別対応を実施していない

問8 問4-1で伺ったスポーツ大会及び全国高等学校総合体育大会（インターハイ）等で活躍した障害のある受験生について、貴学部等では特別推薦制度がありますか。（○は1つ）

1. ある
2. ない →（問9へお進みください）

（問8で「1」と回答した大学にお伺いします。）

問8-1 過去の特別推薦制度の志願者で、これまでに合格した志願者はいましたか。（○は1つ）

1. いる 2. いない

IV アスリートの競技力向上について

問9 アスリートの競技力向上を目的とした研究を行う研究組織（個人研究を含む）が、学（部）内にありますか。（○は1つ）

1. ある
2. ない → （問10へお進みください）

（問9で「1」と回答した大学にお伺いします。）

▶ 問9-1 その研究組織で、障害のあるスポーツ選手を対象とした研究は行っていますか。（○は1つ）

1. 常に行っている
2. ときどき行っている
3. 行っていない } → （問10へお進みください）

（問9-1で「1」と回答した大学にお伺いします。）

▶ 問9-2 差し支えなければ、障害のあるスポーツ選手の競技力向上を目的とした、その研究組織の名称、研究者、研究内容に関する参考情報について（URL など）記入してください。

（研究組織の名称）

（研究者）

（研究内容に関する参考情報：URL、文献等）

（問9で「2」、問9-1で「2」または「3」と回答した大学にお伺いします。）

問10 今後、障害のあるスポーツ選手の競技力向上を目的とした研究を進めていく考えがありますか。（○は1つ）

1. ある
2. 必要があれば行う
3. ない

問11 アスリートの競技力向上を目的としたコーチ養成を行う組織・個人が学（部）内にありますか。（○は1つ）

1. ある
2. ない → （問13へお進みください）

（問11で「1」と回答した大学にお伺いします。）

▶ 問12 アスリートの競技力向上を目的としたコーチ養成を行う組織・個人の中で、障害のあるスポーツ選手を指導するコーチ養成を行っていますか。（○は1つ）

1. 常に行っている
2. ときどき行っている
3. 行っていない } → （問13へお進みください）

問13 今後、障害のあるスポーツ選手を指導するコーチ養成を行う可能性がありますか。(○は1つ)

1. ある 2. 条件があえば行う (その条件を具体的に: _____) 3. ない
--

問14 パラリンピック等の国際大会やジャパンパラ競技大会等の国内大会に貴大学の教職員を選手、指導者、役員、支援スタッフ等で派遣したことがありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない → (問15へお進みください)

(問14で「1」と回答した大学にお伺いします。)

問14-1 貴大学の教職員について、どの大会にどのような役職で派遣しましたか。それぞれお答えください。

該当する大会の番号に○をつけてください。	役職 (○はいくつでも)
1. パラリンピック	1. 選手 2. 指導者 3. 役員 4. 支援スタッフ (具体的に: _____) 5. その他 (具体的に: _____)
2. その他国際大会 (具体的に: _____)	1. 選手 2. 指導者 3. 役員 4. 支援スタッフ (具体的に: _____) 5. その他 (具体的に: _____)
3. ジャパンパラ競技大会	1. 選手 2. 指導者 3. 役員 4. 支援スタッフ (具体的に: _____) 5. その他 (具体的に: _____)
4. その他国内大会 (具体的に: _____)	1. 選手 2. 指導者 3. 役員 4. 支援スタッフ (具体的に: _____) 5. その他 (具体的に: _____)

V 障害者スポーツ選手の競技力向上における大学の役割・意向について

問15 障害のあるスポーツ選手の競技力向上における大学の役割についてお伺いします。以下の16項目における大学の役割の重要度について、それぞれ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	大学の役割 (○は1つ)			
	重要である	やや重要である	重要ではない あまり	まったく重要ではない
1. 大学スポーツ施設の利用	1	2	3	4
2. 大学研究(実験)施設の利用	1	2	3	4
3. 活動に対する人的サポート支援	1	2	3	4
4. 専門の研究者養成	1	2	3	4
5. 専門のコーチ養成	1	2	3	4
6. 障害のあるスポーツ選手(学生として)育成・強化	1	2	3	4
7. 障害者スポーツに関する授業の開設	1	2	3	4
8. 大学連携による支援システム	1	2	3	4
9. 国立または地域の リハビリテーションセンターとの協同	1	2	3	4
10. ナショナルまたは地域の トレーニングセンターとの協同	1	2	3	4
11. 国立または地域の スポーツ科学センターとの協同	1	2	3	4
12. 研究に関する予算的措置	1	2	3	4
13. 教育に関する予算的措置	1	2	3	4
14. 選手育成・強化に関する予算的措置	1	2	3	4
15. 競技大会への教職員の派遣	1	2	3	4
16. その他(具体的に: _____)	1	2	3	4

問16 障害のあるスポーツ選手の競技力向上における貴大学のご意向についてお伺いします。以下の16項目における貴大学のご意向について、それぞれ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	大学の意向 (○は1つ)			
	実施している	条件が整えば実施する	実施は難しい	実施しない
1. 大学スポーツ施設の利用	1	2	3	4
2. 大学研究(実験)施設の利用	1	2	3	4
3. 活動に対する人的サポート支援	1	2	3	4
4. 専門の研究者養成	1	2	3	4
5. 専門のコーチ養成	1	2	3	4
6. 障害のあるスポーツ選手(学生として)育成・強化	1	2	3	4
7. 障害者スポーツに関する授業の開設	1	2	3	4
8. 大学連携による支援システム	1	2	3	4
9. 国立または地域の リハビリテーションセンターとの協同	1	2	3	4
10. ナショナルまたは地域の トレーニングセンターとの協同	1	2	3	4
11. 国立または地域の スポーツ科学センターとの協同	1	2	3	4
12. 研究に関する予算的措置	1	2	3	4
13. 教育に関する予算的措置	1	2	3	4
14. 選手育成・強化に関する予算的措置	1	2	3	4
15. 競技大会への教職員の派遣	1	2	3	4
16. その他(具体的に: _____)	1	2	3	4



※ 1つでも「2. 条件が整えば実施する」に○をつけた大学は、問16-1へお進みください。

問16-1 実施の条件について、それぞれ具体的に記入してください。

項目	条件
1. 大学スポーツ施設の利用	
2. 大学研究（実験）施設の利用	
3. 活動に対する人的サポート支援	
4. 専門の研究者養成	
5. 専門のコーチ養成	
6. 障害のあるスポーツ選手（学生として）育成・強化	
7. 障害者スポーツに関する授業の開設	
8. 大学連携による支援システム	
9. 国立または地域の リハビリテーションセンターとの協同	
10. ナショナルまたは地域の トレーニングセンターとの協同	
11. 国立または地域の スポーツ科学センターとの協同	
12. 研究に関する予算的措置	
13. 教育に関する予算的措置	
14. 選手育成・強化に関する予算的措置	
15. 競技大会への教職員の派遣	
16. その他（具体的に：.....）	

問17 大学の障害者スポーツにおける現状について、ご意見がありましたら自由にお書きください。

ご協力いただき、ありがとうございました。

I. 問1①現在の障害者の在籍状況

項目		回答数	在籍あり	在籍なし	把握していない	無回答
身体障害者／視覚障害	学部数	51	16	24	6	5
	割合	100.0	31.4	47.1	11.8	9.8
身体障害者／聴覚障害	学部数	51	27	15	5	4
	割合	100.0	52.9	29.4	9.8	7.8
身体障害者／肢体不自由(車椅子使用)	学部数	51	19	19	7	6
	割合	100.0	37.3	37.3	13.7	11.8
身体障害者／肢体不自由(義肢使用)	学部数	51	6	28	9	8
	割合	100.0	11.8	54.9	17.6	15.7
身体障害者／その他の身体障害	学部数	51	24	15	8	4
	割合	100.0	47.1	29.4	15.7	7.8
精神障害	学部数	51	13	17	12	9
	割合	100.0	25.5	33.3	23.5	17.6
病弱	学部数	51	17	14	11	9
	割合	100.0	33.3	27.5	21.6	17.6
その他	学部数	51	6	17	7	21
	割合	100.0	11.8	33.3	13.7	41.2

I. 問1①現在の障害者の在籍者数(名)

項目		調査数	平均	最小値	最大値
身体障害者／視覚障害(名)	学部数	14	6.6	1.0	50.0
	割合	12.1			
身体障害者／聴覚障害(名)	学部数	25	5.0	1.0	46.0
	割合	21.6			
身体障害者／肢体不自由(車椅子使用)(名)	学部数	16	3.4	1.0	15.0
	割合	13.8			
身体障害者／肢体不自由(義肢使用)(名)	学部数	6	5.7	1.0	25.0
	割合	5.2			
身体障害者／その他の身体障害(名)	学部数	22	4.1	1.0	16.0
	割合	19.0			
精神障害(名)	学部数	12	3.4	1.0	9.0
	割合	10.3			
病弱(名)	学部数	15	3.4	1.0	14.0
	割合	12.9			
その他(名)	学部数	6	2.2	1.0	4.0
	割合	5.2			

I. 問1②障害者の卒業状況

項目		回答数	在籍あり	在籍なし	把握していない	無回答
身体障害者／視覚障害	学部数	51	11	20	14	6
	割合	100.0	21.6	39.2	27.5	11.8
身体障害者／聴覚障害	学部数	51	21	13	13	4
	割合	100.0	41.2	25.5	25.5	7.8
身体障害者／肢体不自由(車椅子使用)	学部数	51	11	19	13	8
	割合	100.0	21.6	37.3	25.5	15.7
身体障害者／肢体不自由(義肢使用)	学部数	51	4	23	16	8
	割合	100.0	7.8	45.1	31.4	15.7
身体障害者／その他の身体障害	学部数	51	16	15	15	5
	割合	100.0	31.4	29.4	29.4	9.8
精神障害	学部数	51	6	19	17	9
	割合	100.0	11.8	37.3	33.3	17.6
病弱	学部数	51	6	17	18	10
	割合	100.0	11.8	33.3	35.3	19.6
その他	学部数	51	3	17	13	18
	割合	100.0	5.9	33.3	25.5	35.3

I. 問1②障害者の卒業生数(名)

項目		調査数	平均	最小値	最大値
身体障害者／視覚障害(名)	学部数	10	8.2	1.0	46.0
	割合	14.7			
身体障害者／聴覚障害(名)	学部数	20	6.3	1.0	45.0
	割合	29.4			
身体障害者／肢体不自由(車椅子使用)(名)	学部数	8	3.4	1.0	11.0
	割合	11.8			
身体障害者／肢体不自由(義肢使用)(名)	学部数	4	11.0	1.0	40.0
	割合	5.9			
身体障害者／その他の身体障害(名)	学部数	14	3.0	1.0	10.0
	割合	20.6			
精神障害(名)	学部数	5	3.2	1.0	9.0
	割合	7.4			
病弱(名)	学部数	4	7.5	3.0	14.0
	割合	5.9			
その他(名)	学部数	3	2.0	1.0	4.0
	割合	4.4			

問2. 障害学生支援部署の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	20	26	5
割合	100.0	39.2	51.0	9.8

問3(1)講義における支援の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	36	12	3
割合	100.0	70.6	23.5	5.9

問3(2)学内の生活環境における支援の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	37	9	5
割合	100.0	72.5	17.6	9.8

問3(3)その他の支援の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	20	17	14
割合	100.0	39.2	33.3	27.5

I. 問4①障害のあるスポーツ選手の在籍の有無

項目	回答数	在籍あり	在籍なし	把握していない	無回答
身体障害者／視覚障害	学部数 51 割合 100.0	5 9.8	31 60.8	10 19.6	5 9.8
身体障害者／聴覚障害	学部数 51 割合 100.0	8 15.7	30 58.8	9 17.6	4 7.8
身体障害者／肢体不自由(車椅子使用)	学部数 51 割合 100.0	3 5.9	33 64.7	10 19.6	5 9.8
身体障害者／肢体不自由(義肢使用)	学部数 51 割合 100.0	3 5.9	33 64.7	11 21.6	4 7.8
身体障害者／その他の身体障害	学部数 51 割合 100.0	4 7.8	31 60.8	12 23.5	4 7.8
精神障害	学部数 51 割合 100.0	1 2.0	31 60.8	14 27.5	5 9.8
病弱	学部数 51 割合 100.0	2 3.9	30 58.8	14 27.5	5 9.8
その他	学部数 51 割合 100.0	1 2.0	21 41.2	8 15.7	21 41.2

I. 問4②障害のあるスポーツ選手の卒業生の有無

項目	回答数	在籍あり	在籍なし	把握していない	無回答
身体障害者／視覚障害	学部数 51 割合 100.0	2 3.9	32 62.7	11 21.6	6 11.8
身体障害者／聴覚障害	学部数 51 割合 100.0	8 15.7	27 52.9	11 21.6	5 9.8
身体障害者／肢体不自由(車椅子使用)	学部数 51 割合 100.0	3 5.9	30 58.8	12 23.5	6 11.8
身体障害者／肢体不自由(義肢使用)	学部数 51 割合 100.0	1 2.0	32 62.7	12 23.5	6 11.8
身体障害者／その他の身体障害	学部数 51 割合 100.0	7 13.7	28 54.9	11 21.6	5 9.8
精神障害	学部数 51 割合 100.0	-	30 58.8	15 29.4	6 11.8
病弱	学部数 51 割合 100.0	1 2.0	29 56.9	15 29.4	6 11.8
その他	学部数 51 割合 100.0	-	20 39.2	9 17.6	22 43.1

I. 問4-1. 障害スポーツ選手の大会への参加状況

項目	回答数	参加した	参加していない	わからない	無回答
1. パラリンピック	学部数 16 割合 100.0	6 37.5	6 37.5	-	4 25.0
2. デフリンピック	学部数 16 割合 100.0	7 43.8	4 25.0	1 6.3	4 25.0
3. 競技別障害者スポーツ国際大会	学部数 16 割合 100.0	8 50.0	2 12.5	3 18.8	3 18.8
4. ジャパンパラ競技大会	学部数 16 割合 100.0	3 18.8	3 18.8	5 31.3	5 31.3
5. インカレ(予選会を含む)	学部数 16 割合 100.0	4 25.0	3 18.8	5 31.3	4 25.0
6. 国体(予選会を含む)	学部数 16 割合 100.0	7 43.8	2 12.5	3 18.8	4 25.0
7. 一般の学生競技大会	学部数 16 割合 100.0	7 43.8	3 18.8	3 18.8	3 18.8

I. 問4-1. 障害スポーツ選手の大会への参加人数(名)

項目	回答数	平均	最小値	最大値
1. パラリンピック(名)	学部数 6 割合 14.6	1.7	1.0	3.0
2. デフリンピック(名)	学部数 6 割合 14.6	1.2	1.0	2.0
3. 競技別障害者スポーツ国際大会(名)	学部数 8 割合 19.5	3.0	1.0	6.0
4. ジャパンパラ競技大会(名)	学部数 3 割合 7.3	2.0	2.0	2.0
5. インカレ(予選会を含む)(名)	学部数 4 割合 9.8	2.3	1.0	4.0
6. 国体(予選会を含む)(名)	学部数 7 割合 17.1	1.9	1.0	4.0
7. 一般の学生競技大会(名)	学部数 7 割合 100.0	2.4	1.0	6.0

II. 運動施設について

問5. 大学が保有する施設

項目	回答数	陸上競技場	球技用グラウンド	メインアリーナ 体育館	種目別体育館	プール	武道場	アーチェリー場	テニスコート	トレーニング施設	運動施設に付帯する更衣室、 シャワールーム	運動施設に付帯するトイレ
学部数	51	40	48	49	28	39	43	18	46	49	49	48
割合	100.0	78.4	94.1	96.1	54.9	76.5	84.3	35.3	90.2	96.1	96.1	94.1

II. 問5. 大学の運動施設の利用状況／学内

項目	回答数	学生は自由に利用できる	登録制で利用できる	授業や部活動時のみ利用できる	その他	無回答
1. 陸上競技場	学部数 40 割合 100.0	11 27.5	12 30.0	10 25.0	3 7.5	4 10.0
2. 球技用グラウンド	学部数 48 割合 100.0	10 20.8	16 33.3	12 25.0	5 10.4	5 10.4
3. 体育館メインアリーナ	学部数 49 割合 100.0	11 22.4	18 36.7	10 20.4	5 10.2	5 10.2
4. 種目別体育館	学部数 28 割合 100.0	6 21.4	7 25.0	9 32.1	4 14.3	2 7.1
5. プール	学部数 39 割合 100.0	8 20.5	15 38.5	8 20.5	3 7.7	5 12.8
6. 武道場	学部数 43 割合 100.0	9 20.9	12 27.9	14 32.6	4 9.3	4 9.3
7. アーチェリー場	学部数 18 割合 100.0	3 16.7	4 22.2	7 38.9	2 11.1	2 11.1
8. テニスコート	学部数 46 割合 100.0	11 23.9	17 37.0	10 21.7	3 6.5	5 10.9
9. トレーニング施設	学部数 49 割合 100.0	18 36.7	20 40.8	5 10.2	2 4.1	4 8.2

II. 問5. 大学の運動施設の利用状況／学外

項目	回答数	学内団体(者)利用のみ	学外団体(者)利用も可能	その他	無回答
1. 陸上競技場	学部数 40 割合 100.0	5 12.5	23 57.5	3 7.5	9 22.5
2. 球技用グラウンド	学部数 48 割合 100.0	4 8.3	30 62.5	4 8.3	10 20.8
3. 体育館メインアリーナ	学部数 49 割合 100.0	5 10.2	27 55.1	4 8.2	13 26.5
4. 種目別体育館	学部数 28 割合 100.0	2 7.1	15 53.6	3 10.7	8 28.6
5. プール	学部数 39 割合 100.0	8 20.5	18 46.2	3 7.7	10 25.6
6. 武道場	学部数 43 割合 100.0	7 16.3	20 46.5	3 7.0	13 30.2
7. アーチェリー場	学部数 18 割合 100.0	5 27.8	8 44.4	3 16.7	2 11.1
8. テニスコート	学部数 46 割合 100.0	6 13.0	28 60.9	2 4.3	10 21.7
9. トレーニング施設	学部数 49 割合 100.0	18 36.7	16 32.7	2 4.1	13 26.5

II. 問5. 大学の運動施設のバリアフリー度

項目	回答数	バリアフリーに全面的に対応している	一部対応している	対応していない	無回答
1. 陸上競技場	学部数 40 割合 100.0	5 12.5	16 40.0	14 35.0	5 12.5
2. 球技用グラウンド	学部数 48 割合 100.0	8 16.7	14 29.2	21 43.8	5 10.4
3. 体育館メインアリーナ	学部数 49 割合 100.0	10 20.4	25 51.0	9 18.4	5 10.2
4. 種目別体育館	学部数 28 割合 100.0	4 14.3	12 42.9	8 28.6	4 14.3
5. プール	学部数 39 割合 100.0	1 2.6	7 17.9	28 71.8	3 7.7
6. 武道場	学部数 43 割合 100.0	3 7.0	12 27.9	25 58.1	3 7.0
7. アーチェリー場	学部数 18 割合 100.0	1 5.6	5 27.8	11 61.1	1 5.6
8. テニスコート	学部数 46 割合 100.0	5 10.9	11 23.9	25 54.3	5 10.9
9. トレーニング施設	学部数 49 割合 100.0	7 14.3	16 32.7	22 44.9	4 8.2

II. 運動施設について

問5. 更衣室、シャワールームが付帯している運動施設

問5. 更衣室、シャワールームのバリアフリー度

項目	回答数	陸上競技場	球技用グラウンド	体育館メインアリーナ	種目別体育館	プール	武道場	アーチェリー場	テニスコート	トレーニング施設	無回答
全体	49	12	10	41	21	31	27	1	5	23	5
バリアフリーに全面的に対応している	2	-	-	2	-	-	1	-	-	1	-
一部対応している	17	5	4	14	8	11	13	-	1	11	2
対応していない	25	6	5	21	11	18	12	1	4	9	2
割合	100.0	24.5	20.4	83.7	42.9	63.3	55.1	2.0	10.2	46.9	10.2

II. 運動施設について

問5. トイレが付帯している運動施設

問5. トイレのバリアフリー度

項目	回答数	陸上競技場	球技用グラウンド	体育館メインアリーナ	種目別体育館	プール	武道場	アーチェリー場	テニスコート	トレーニング施設	無回答
全体	48	26	25	39	22	27	26	3	15	24	4
バリアフリーに全面的に対応している	5	2	1	4	1	1	3	-	1	2	1
一部対応している	25	14	13	20	13	17	13	1	10	14	2
対応していない	12	6	7	10	4	7	8	1	2	5	-
割合	100.0	54.2	52.1	81.3	45.8	56.3	54.2	6.3	31.3	50.0	8.3

II. 問6. 現在の競技施設の使用実用状況

項目	回答数	ある	ない	無回答	
					学部数
1. 陸上競技場	40	6	31	3	
2. 球技用グラウンド	48	2	40	6	
3. 体育館メインアリーナ	48	3	35	10	
4. 種目別体育館	28	3	20	5	
5. プール	40	2	32	6	
6. 武道場	43	-	37	6	
7. アーチェリー場	18	-	15	3	
8. テニスコート	46	2	39	5	
9. トレーニング施設	49	3	41	5	
割合	100.0	15.0	77.5	7.5	

II. 問6. 過去の競技施設の使用実用状況

項目	回答数	あった	なかった	無回答	
					学部数
1. 陸上競技場	40	9	27	4	
2. 球技用グラウンド	48	1	38	9	
3. 体育館メインアリーナ	48	10	31	7	
4. 種目別体育館	28	5	16	7	
5. プール	40	2	30	8	
6. 武道場	43	2	33	8	
7. アーチェリー場	18	-	14	4	
8. テニスコート	46	3	37	6	
9. トレーニング施設	49	3	39	7	
割合	100.0	22.5	67.5	10.0	

II. 問6. 今後の競技施設の使用実用状況

項目	回答数	予定ある	予定ない	無回答	
					学部数
1. 陸上競技場	40	9	26	5	
2. 球技用グラウンド	48	4	36	8	
3. 体育館メインアリーナ	48	6	33	9	
4. 種目別体育館	28	5	17	6	
5. プール	40	5	27	8	
6. 武道場	43	4	31	8	
7. アーチェリー場	18	2	12	4	
8. テニスコート	46	5	34	7	
9. トレーニング施設	49	6	36	7	
割合	100.0	12.5	67.5	20.0	

II. 問6. 使用貸出実績のあるスポーツ種目

項目		回答数	陸上競技	水泳	車いすテニス	ボッチャ	卓球	柔道	セーリング	パワーリフティング	射撃	自転車	アーチェリー	馬術	ゴールボール
1. 陸上競技場	学部数	40	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	割合	100.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 球技用グラウンド	学部数	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	割合	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 体育館メインアリーナ	学部数	48	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	割合	100.0	-	-	2.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 種目別体育館	学部数	28	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	割合	100.0	-	-	-	-	3.6	-	-	-	-	-	-	-	-
5. プール	学部数	40	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	割合	100.0	-	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6. 武道場	学部数	43	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	割合	100.0	-	-	-	-	-	4.7	-	-	-	-	-	-	-
7. アーチェリー場	学部数	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	割合	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6	-	-
8. テニスコート	学部数	46	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	割合	100.0	-	-	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9. トレーニング施設	学部数	49	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	割合	100.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

項目		回答数	車いすフエンシング	バスケットボール	車いす (視覚/脳性麻痺)	障害者サッカー ラグビー	ウィルチェアー	シッティングバレーボール	ボート	スキー(アルペン/ クロカン/バイアスロン)	アイススレッジ ホッケー	車いすカーリング	その他1	その他2	無回答
1. 陸上競技場	学部数	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
	割合	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80.0
2. 球技用グラウンド	学部数	48	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
	割合	100.0	-	-	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95.8
3. 体育館メインアリーナ	学部数	49	-	7	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	39
	割合	100.0	-	14.6	-	-	2.1	-	-	-	-	-	2.1	-	81.3
4. 種目別体育館	学部数	28	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	23
	割合	100.0	-	10.7	-	-	-	-	-	-	-	-	3.6	-	82.1
5. プール	学部数	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36
	割合	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	90.0
6. 武道場	学部数	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	39
	割合	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3	2.3	90.7
7. アーチェリー場	学部数	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
	割合	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	94.4
8. テニスコート	学部数	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44
	割合	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95.7
9. トレーニング施設	学部数	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48
	割合	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98.0

Ⅲ. 入学試験における障害者スポーツ選手への対応について

問7(1)実技試験の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	18	26	7
割合	100.0	35.3	51.0	13.7

問7(1)実技試験の個別対応の有無

項目	回答数	実施している 個別対応を	実施していない 個別対応を	無回答
学部数	18	10	7	1
割合	100.0	55.6	38.9	5.6

問7(2)筆記試験の有無

項目	調査数	ある	ない	無回答
学部数	51	23	21	7
割合	100.0	45.1	41.2	13.7

問7(2)筆記試験の個別対応の有無

項目	調査数	実施している 個別対応を	実施していない 個別対応を	無回答
学部数	23	16	6	1
割合	100.0	69.6	26.1	4.3

問7(3)面接試験の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	23	21	7
割合	100.0	45.1	41.2	13.7

問7(3)面接試験の個別対応の有無

項目	回答数	実施している 個別対応を	実施していない 個別対応を	無回答
学部数	23	13	8	2
割合	100.0	56.5	34.8	8.7

問8. 障害のある学生に対しての特別推薦制度の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	3	39	9
割合	100.0	5.9	76.5	17.6

問8-1. 過去の特別推薦制度志願者の合格者の有無

項目	回答数	いる	いない
学部数	3	-	3
割合	100.0	-	100.0

IV. アスリートの競技力向上について

問9. 学内のアスリートの競技力向上を目的とした研究組織の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	31	19	1
割合	100.0	60.8	37.3	2.0

問9-1. 研究組織での障害スポーツ選手対象の研究の有無

項目	回答数	常に行っている	ときどき行っている	行っていない
学部数	31	6	3	22
割合	100.0	19.4	9.7	71.0

問10. 今後の障害スポーツ選手の競技力向上を目的とした研究意向

項目	回答数	ある	必要があれば行う	ない	無回答
学部数	44	3	29	9	3
割合	100.0	6.8	65.9	20.5	6.8

問11. 学内のアスリートの競技力向上を目的としたコーチ養成を行う組織の有無

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	18	32	1
割合	100.0	35.3	62.7	2.0

問12. 組織内での障害スポーツ選手を指導するコーチ養成の有無

項目	回答数	常に行っている	ときどき行っている	行っていない	無回答
学部数	18	1	5	11	1
割合	100.0	5.6	27.8	61.1	5.6

問13. 今後の障害スポーツ選手を指導するコーチ養成の可能性

項目	回答数	ある	条件があれば行う	ない	無回答
学部数	48	8	7	32	1
割合	100.0	16.7	14.6	66.7	2.1

IV. アスリートの競技力向上について

問14. 国際、国内大会へ教職員を選手、指導者等で派遣した経験

項目	回答数	ある	ない	無回答
学部数	51	14	35	2
割合	100.0	27.5	68.6	3.9

問14-1. 派遣したことがある大会

項目	回答数	パラリンピック	その他国際大会	ジャパンパラ競技大会	その他国内大会
学部数	14	7	5	6	7
割合	100.0	50.0	35.7	42.9	50.0

問14-1. 派遣した役職／パラリンピック

項目	回答数	選手	指導者	役員	支援スタッフ	その他
学部数	7	1	5	3	3	-
割合	100.0	14.3	71.4	42.9	42.9	-

問14-1. 派遣した役職／その他国際大会

項目	回答数	選手	指導者	役員	支援スタッフ	その他
学部数	5	-	1	2	2	-
割合	100.0	-	20.0	40.0	40.0	-

問14-1. 派遣した役職／ジャパンパラ競技大会

項目	回答数	選手	指導者	役員	支援スタッフ	その他
学部数	6	2	3	3	1	1
割合	100.0	33.3	50.0	50.0	16.7	16.7

問14-1. 派遣した役職／その他国内大会

項目	回答数	選手	指導者	役員	支援スタッフ	その他
学部数	7	2	3	4	1	-
割合	100.0	28.6	42.9	57.1	14.3	-

V. 問15. 障害スポーツ選手の競技向上における大学の役割の重要度

項目		回答数	重要である	やや重要である	あまり重要ではない	まったく重要ではない	無回答
1. 大学スポーツ施設の利用	学部数	51	18	21	5	-	7
	割合	100.0	35.3	41.2	9.8	-	13.7
2. 大学研究(実験)施設の利用	学部数	51	18	19	7	-	7
	割合	100.0	35.3	37.3	13.7	-	13.7
3. 活動に対する人的サポート支援	学部数	51	20	19	4	1	7
	割合	100.0	39.2	37.3	7.8	2.0	13.7
4. 専門の研究者養成	学部数	51	18	17	8	1	7
	割合	100.0	35.3	33.3	15.7	2.0	13.7
5. 専門のコーチ養成	学部数	51	15	17	11	1	7
	割合	100.0	29.4	33.3	21.6	2.0	13.7
6. 障害のあるスポーツ選手(学生として)育成・強化	学部数	51	11	17	14	1	8
	割合	100.0	21.6	33.3	27.5	2.0	15.7
7. 障害者スポーツに関する授業の開設	学部数	51	21	20	3	-	7
	割合	100.0	41.2	39.2	5.9	-	13.7
8. 大学連携による支援システム	学部数	51	15	21	7	-	8
	割合	100.0	29.4	41.2	13.7	-	15.7
9. 国立または地域のリハビリテーションセンターとの協同	学部数	51	15	17	11	-	8
	割合	100.0	29.4	33.3	21.6	-	15.7
10. ナショナルまたは地域のトレーニングセンターとの協同	学部数	51	16	17	11	-	7
	割合	100.0	31.4	33.3	21.6	-	13.7
11. 国立または地域のスポーツ科学センターとの協同	学部数	51	17	18	9	-	7
	割合	100.0	33.3	35.3	17.6	-	13.7
12. 研究に関する予算的措置	学部数	51	15	16	12	-	8
	割合	100.0	29.4	31.4	23.5	-	15.7
13. 教育に関する予算的措置	学部数	51	18	19	6	-	8
	割合	100.0	35.3	37.3	11.8	-	15.7
14. 選手育成・強化に関する予算的措置	学部数	51	13	13	15	2	8
	割合	100.0	25.5	25.5	29.4	3.9	15.7
15. 競技大会への教職員の派遣	学部数	51	14	23	7	-	7
	割合	100.0	27.5	45.1	13.7	-	13.7
16. その他	学部数	51	2	3	-	-	46
	割合	100.0	3.9	5.9	-	-	90.2

V. 問16. 障害スポーツ選手の競技向上における大学の意向

項目		回答数	実施している	条件が整えば実施する	実施は難しい	実施しない	無回答
1. 大学スポーツ施設の利用	学部数	51	7	21	17	1	5
	割合	100.0	13.7	41.2	33.3	2.0	9.8
2. 大学研究(実験)施設の利用	学部数	51	4	21	17	3	6
	割合	100.0	7.8	41.2	33.3	5.9	11.8
3. 活動に対する人的サポート支援	学部数	51	8	21	14	2	6
	割合	100.0	15.7	41.2	27.5	3.9	11.8
4. 専門の研究者養成	学部数	51	4	15	22	3	7
	割合	100.0	7.8	29.4	43.1	5.9	13.7
5. 専門のコーチ養成	学部数	51	2	16	22	4	7
	割合	100.0	3.9	31.4	43.1	7.8	13.7
6. 障害のあるスポーツ選手(学生として)育成・強化	学部数	51	2	18	21	3	7
	割合	100.0	3.9	35.3	41.2	5.9	13.7
7. 障害者スポーツに関する授業の開設	学部数	51	20	15	10	1	5
	割合	100.0	39.2	29.4	19.6	2.0	9.8
8. 大学連携による支援システム	学部数	51	1	22	19	2	7
	割合	100.0	2.0	43.1	37.3	3.9	13.7
9. 国立または地域のリハビリテーションセンターとの協同	学部数	51	2	21	18	3	7
	割合	100.0	3.9	41.2	35.3	5.9	13.7
10. ナショナルまたは地域のトレーニングセンターとの協同	学部数	51	2	20	19	3	7
	割合	100.0	3.9	39.2	37.3	5.9	13.7
11. 国立または地域のスポーツ科学センターとの協同	学部数	51	2	19	20	3	7
	割合	100.0	3.9	37.3	39.2	5.9	13.7
12. 研究に関する予算的措置	学部数	51	4	14	21	4	8
	割合	100.0	7.8	27.5	41.2	7.8	15.7
13. 教育に関する予算的措置	学部数	51	5	15	19	3	9
	割合	100.0	9.8	29.4	37.3	5.9	17.6
14. 選手育成・強化に関する予算的措置	学部数	51	1	16	22	4	8
	割合	100.0	2.0	31.4	43.1	7.8	15.7
15. 競技大会への教職員の派遣	学部数	51	9	17	15	1	9
	割合	100.0	17.6	33.3	29.4	2.0	17.6
16. その他	学部数	51	2	5	3	-	41
	割合	100.0	3.9	9.8	5.9	-	80.4

大学における障害者スポーツの現状に関する調査研究 報告書

平成 25 年 3 月 29 日 発行

発行者 公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

TEL 0538-38-9827 FAX 0538-32-1112

I S B N 978-4-9907079-0-3

© ヤマハ発動機スポーツ振興財団

本報告書の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを YMFS にご送付ください。

公益財団法人
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
Yamaha Motor Foundation for Sports

I S B N 978-4-9907079-0-3

大学における障害者スポーツの現状に関する調査研究